ＡＭＳ－８００　Ver.2
取扱説明書

ＡＥ－１００２０８
第1版　２０１１年１２月

〒１５３－００６４
東京都目黒区下目黒 ２－４－５
安立計器株式会社
ＴＥＬ．０３－３４９１－９１８１
ＦＡＸ．０３－３４９３－６７２９

この度はＡＭＳ－８００をお買い求め頂きまして誠にありがとうございます。
本アプリケーションソフトは，ＷｉｎｄｏｗｓＸＰ以上のＯＳ上で動作いたします。

本書は，予告なしに一部変更することがございますので予めご了承下さい。
また，本取扱説明書に不備な点等ございましたら，弊社窓口までご連絡下さい。

Ｗｉｎｄｏｗｓは，Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ社の登録商標です。
Ｅｘｃｅｌ及びＷｏｒｄは，Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ社の登録商標です。

目　次

1　概　要
2　梱　包
3　使用可能な計測器の種類
4　簡易操作の手引き
5　接続方法
6　インストール
6.1　USB ドライバのインストール
6.2　AMS-800 のインストール
7　画面構成
7.1　メイン画面の名称とはたらき
7.2　操作方法
8　ソフトウェアの操作方法
8.1　通信ポートの設定方法
8.2　計測器の各種設定の変更方法
(a)　時計の設定
(b)　計測間隔（インターバル）の設定
(c)　使用チャンネルの設定
(d)　分解能の設定
(e)　メモリのクリア方法
(f)　マシン No.の設定
8.3　計測器からデータを吸い上げる方法
8.4　リアル計測の方法
8.5　既存ファイルの読み込みと表示
8.6　印刷の方法
8.7　グラフ表示
A.　表示範囲の設定
B.　線色と線種の設定
C.　拡大表示するには
D.　横軸のスクロール方法
E.　２つのグラフを合成する方法
8.8　データ表示
A.　時間の表示形式の設定
8.9　表計算ソフトで使用するには
8.10　文書ファイルにデータを貼り付けるには
8.11　グラフ表示やデータ表示に見出しを付けるには
A.　見出しの作成方法
B.　見出しの確認方法
9　バージョン情報
10　エラーメッセージ
11　コマンド一覧
11.1　メニューバーの説明
11.2　ツールバーの説明

1 概 要

AMS-800 は，コンパクトサーモロガーからデータを収集し、グラフ作成・表作成・ファイル作成・印刷などの処理を簡単に行えるソフトウェアです。
本ソフトウェアをお使いいただくためには以下の動作環境が必要です。

OS　　：Microsoft Windows XP Home/Professional(SP3 以降)
　　Microsoft Windows Vista Home Premium/Business/Ultimate(SP1 以降)
　　32ﾋﾞｯﾄ版
　　Microsoft Windows 7 Home Premium/Business/Ultimate 32ﾋﾞｯﾄ版
CPU　：XP の場合　233MHz 以上
　　Vista/7 の場合 1GHz 以上
メモリ：XP の場合　128MB 以上
　　Vista/7 の場合　1GB 以上
HDD　：インストール環境として、5MB 以上の空きがあるもの
モニタ：800×600ﾋﾟｸｾﾙ以上の解像度が設定できるもの

2 梱 包

購入時に，次のものが入っていることをご確認下さい。万一不備な点等ございましたら購入店もしくは表紙下に記載されている弊社窓口までご連絡下さい。

（1）ＣＤ－ＲＯＭ　・・・・・　1枚
（2）取扱説明書　・・・・・　1冊
（3）ユーザー登録用ＦＡＸシート　・・・・・　1枚

3 使用可能な計測器の種類

本ソフトウェアで使用できる計測器は下記のものになります。通信の際には計測器とパソコン間をＵＳＢ用通信ケーブルまたはＲＳ－２３２Ｃ用通信ケーブルで接続して下さい。

品名	機種名	通信の種類	
		USB 通信	RS232C 通信
ﾊﾝﾃﾞｨｻｰﾓﾛｶﾞｰ	AM-8000, AM-8001, AM-8050 AM-8051, AM-8010, AM-8011 AM-8060, AM-8061	●	
	AM-8100, AM-8101, AM-8150 AM-8151, AM-8110, AM-8111 AM-8160, AM-8161		●
ﾃﾞｰﾀｺﾚｸﾀ	AM-7002, AM-7102, AM-7052 AM-7012, AM-7112, AM-7062 (高速版 HS 含む)		●

※データコレクタについてはバージョンがｖ．＊＊ｂとｖ．＊＊ｈの製品に限定されますのでご注意下さい。

4 簡易操作の手引き

●はじめて使用される場合には（インストール）

USB 通信対応の計測器をお持ちの方は①から順番に設定を行って下さい。
RS-232C 通信対応の計測器をお持ちの方は①、④、⑤の設定を行って下さい。

① 計測器の電源を投入し、パソコンに CD-ROM をセットして下さい。
② 計測器とパソコンを USB 用通信ケーブルで接続して下さい。
③ USB デバイスドライバのインストールを行って下さい。
④ AMS-800 のインストールを行って下さい。
⑤ AMS-800 を起動し、通信ポートの設定を行って下さい。

※ 詳細については **6 ｲﾝｽﾄｰﾙ** をご覧下さい。

●計測器に保存してあるデータを収録するには

① 計測器の電源を投入して下さい。
② 計測器とパソコンを通信ケーブルで接続して下さい。
③ AMS-800 を起動し、【通信(C)】メニューより【データ入力(I)】を選択して下さい。
④ データの保存先を指定して下さい。

※ 詳細については **8.3 計測器からﾃﾞｰﾀを吸い上げる方法** をご覧下さい。

●保存したファイルの内容を見るには

① 【ファイル(F)】メニューから【開く(O)】を選択して下さい。
② ファイル名を指定して開いて下さい。
③ 【表示(V)】メニューによってグラフ表示とデータ一覧表示を切り換えることができます。

※ 詳細については **8.5 既存のﾌｧｲﾙの読み込みと表示** をご覧下さい。

●保存したファイルをＥｘｃｅｌで開くには

① 【ファイル(F)】メニューから【テキストファイルの作成(T)】を選択して下さい。
② ファイル名を指定して下さい。
③ テキストファイルに変換するデータの範囲を指定し、【OK】を押すとテキストファイルが作成され、Excel で開くことが出来ます。

※ 詳細については **8.9 表計算ｿﾌﾄで使用するには** をご覧下さい。

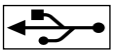
●リアルタイムでグラフ描画するには

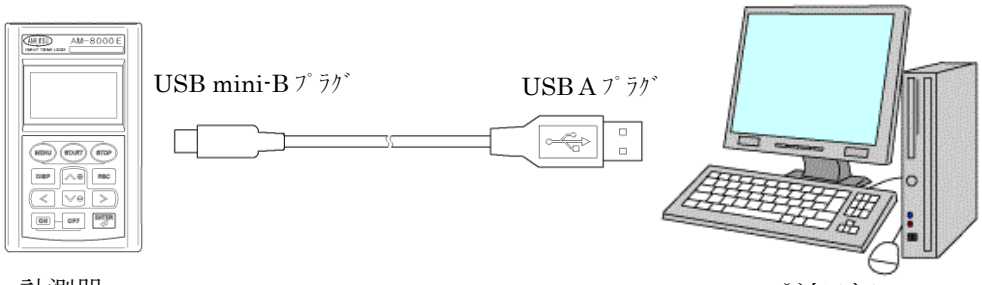
① 計測器の電源を投入して下さい。
② 計測器とパソコンを通信ケーブルで接続して下さい。
③ 【通信(C)】メニューから【リモート設定(R)】を選択して下さい。
④ データの取得するタイミング等、計測する際の諸設定をここで行って下さい。
⑤ 【設定(S)】メニューから【リアルタイムデータの自動保存設定(R)】を選択し、ファイルの保存先等を設定して下さい。
⑥ 【通信(C)】メニューから【リアル計測(M)】を選択して下さい。
⑦ データの保存先を指定して下さい。
⑧ グラフの縦軸、横軸などの設定を行って下さい。

※ 詳細については **8.4 ﾘｱﾙ計測の方法** をご覧下さい

5 接続方法

5.1 USB 用ケーブルで接続する場合

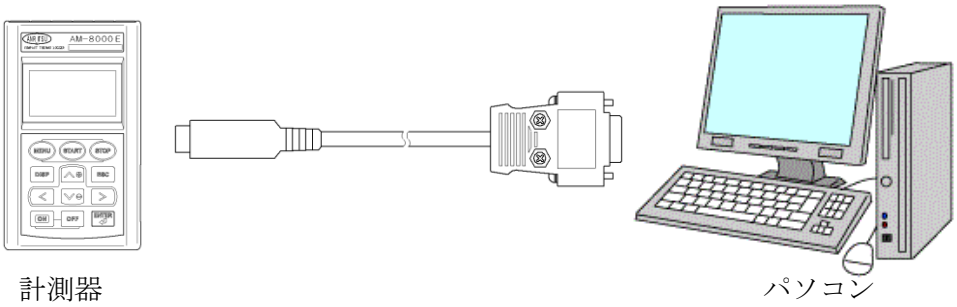
USB 用通信ケーブルはパソコン側が USB A プラグで計測器側が USB mini-B プラグのものをご使用下さい。パソコン側は  のマークのあるコネクタに接続して下さい。



5.2 RS-232C 用ケーブルで接続する場合

パソコン側は のマークのあるコネクタに接続して下さい。

※シリアルポートのコネクタはパソコンによってピン数が異なりますのでご注意下さい。



【注意】パソコンと通信を行わない場合は，必ず計測器をパソコンから切り離して（通信ケーブルから外して）下さい。
接続したまま他のアプリケーションソフトを使用しますと、計測器の誤動作及び，故障の原因となります。

6 インストール

起動しているアプリケーションソフトを全て終了させて下さい。他のアプリケーションソフトが起動していると、インストールが正常に行われない場合があります。

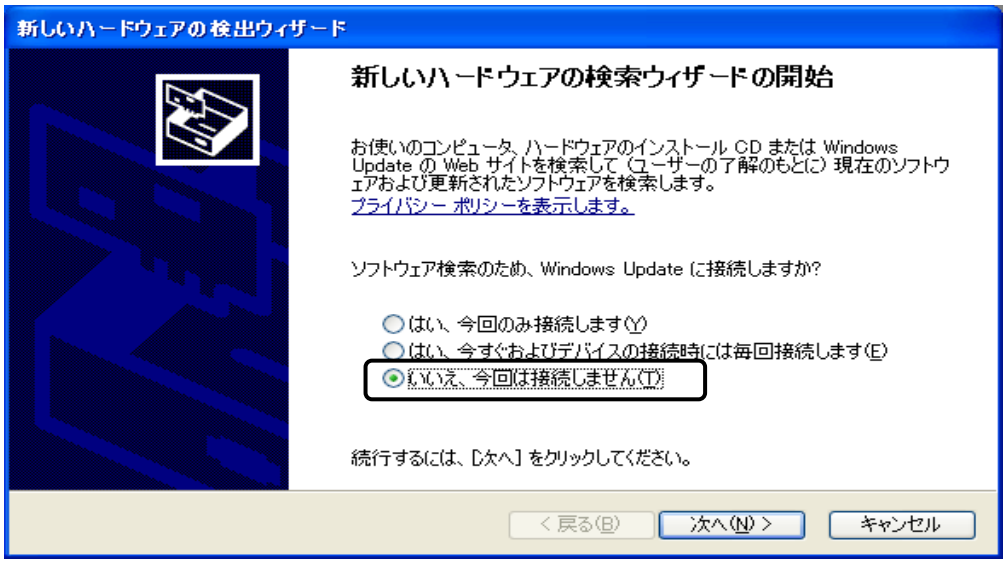
6.1 ＵＳＢデバイスドライバのインストール

（画面は WindowsXP のものを使用しております。Windows7 等におきましては異なる場合があります。）

(1) 計測器とパソコンを USB 用通信ケーブルで接続して下さい。

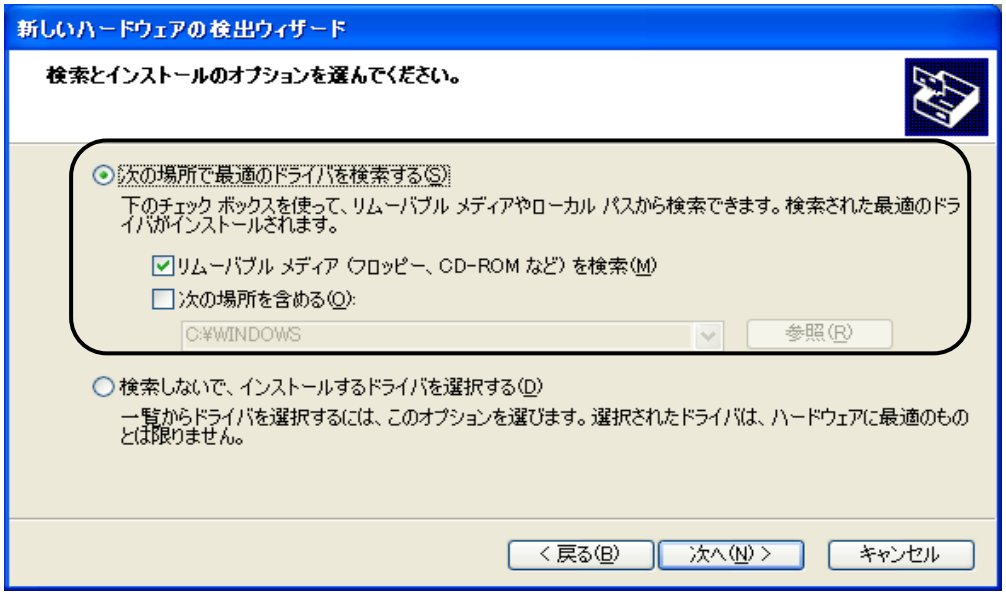
(2) 計測器の電源を入れて下さい。

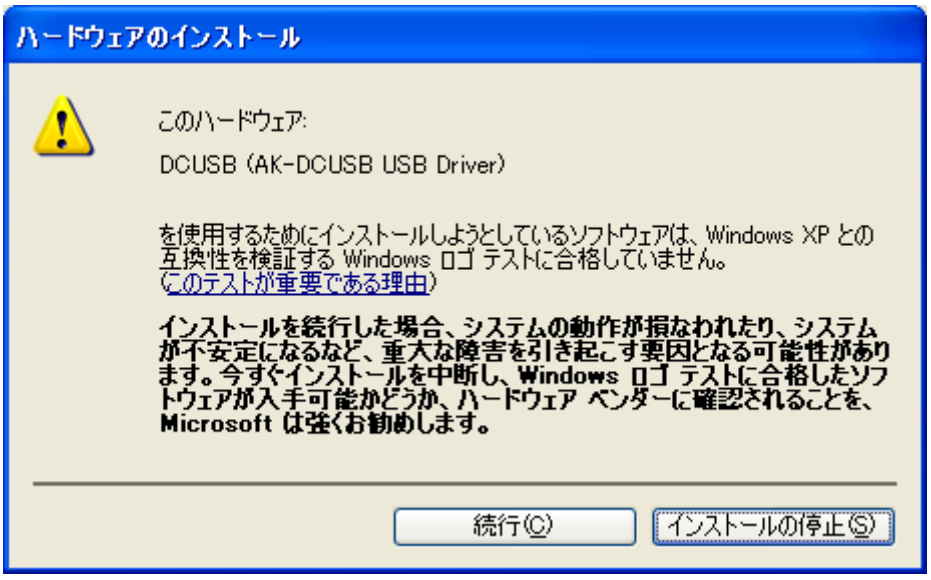
(3) 新しいﾊｰﾄﾞｳｪｱの追加ｳｨｻﾞｰﾄﾞが起動します。Windows Update に接続するか聞かれますので“いいえ、今回は接続しません”を選択し、【次へ】を押して下さい。



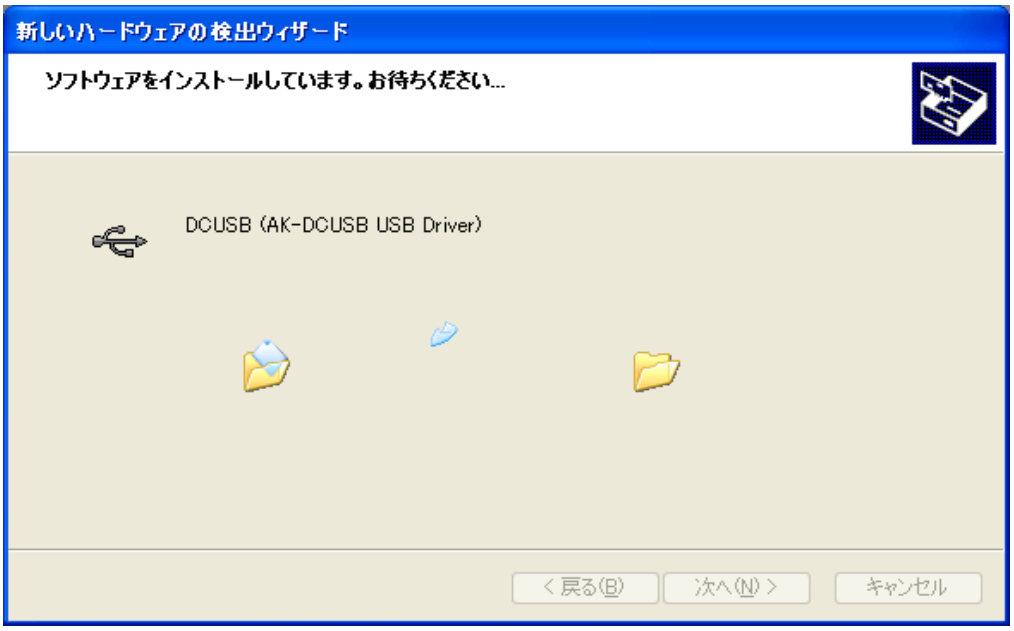
(4) オプション選択で“一覧または特定の場所からインストールする”を選択し、【次へ】を押して下さい。

(5) AMS-800 の CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットして下さい。
(6)“次の場所で最適のドライバを検索する”を選択し、“リムーバブルメディア”にチェックを付けて、【次へ】を押して下さい。



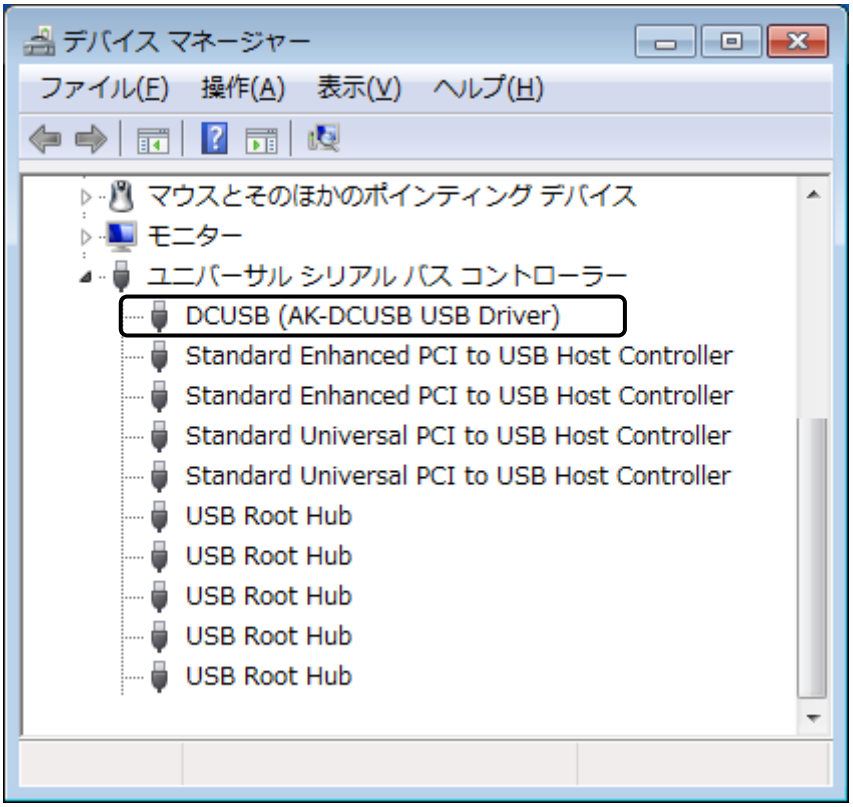


この画面が出ましたら、【続行】をクリックして下さい。
インストールが開始されます。



(8) インストールが終了すると下図のようになりますので【完了】を押して下さい。

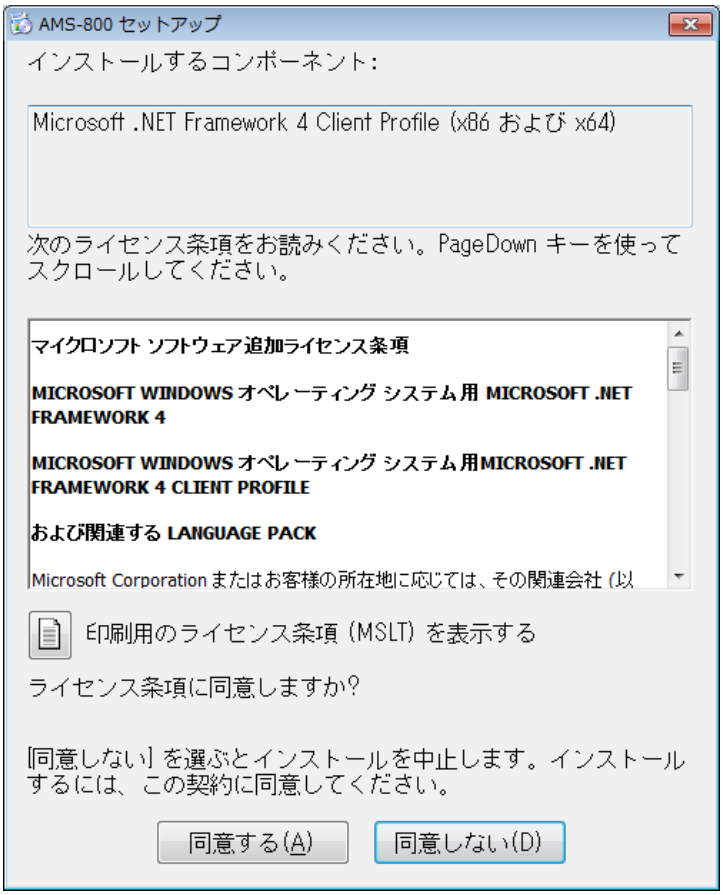
(9) ディスクトップ上のマイコンピュータにマウスを移動し、右ボタンを押して下さい。【プロパティ】を選択し、デバイスマネージャを表示して下さい。ユニバーサルシリアルバスコントローラの中にＤＣＵＳＢがあることを確認して下さい。



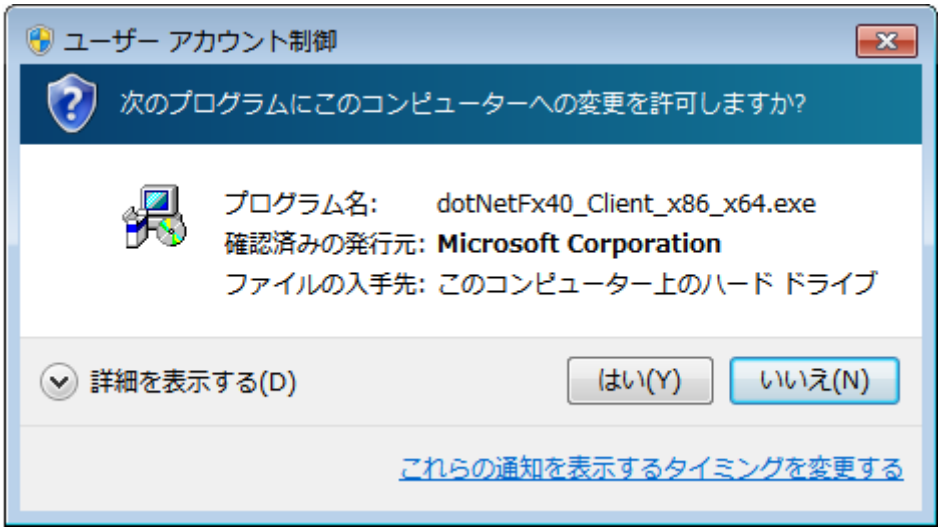
6.2　ＡＭＳ－８００のインストール

(1) AMS-800 の CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットして下さい。
しばらくすると「インストールプログラムウィンドウ」が開きます。
※もし、自動的に開かない場合はディスクトップ上のマイコンピュータを開き、CD-ROM のアイコンをダブルクリックして下さい。

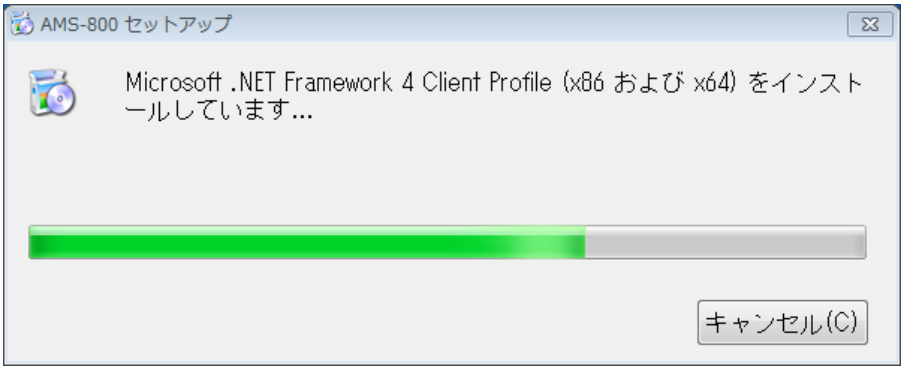
(2) AMS-800 は動作に Microsoft .NET Framework 4 が必要となります。
パソコンにインストールされていない場合、セットアップの画面が表示されますので、内容をよくお読みになり問題なければ【同意する(A)】をクリックして下さい。



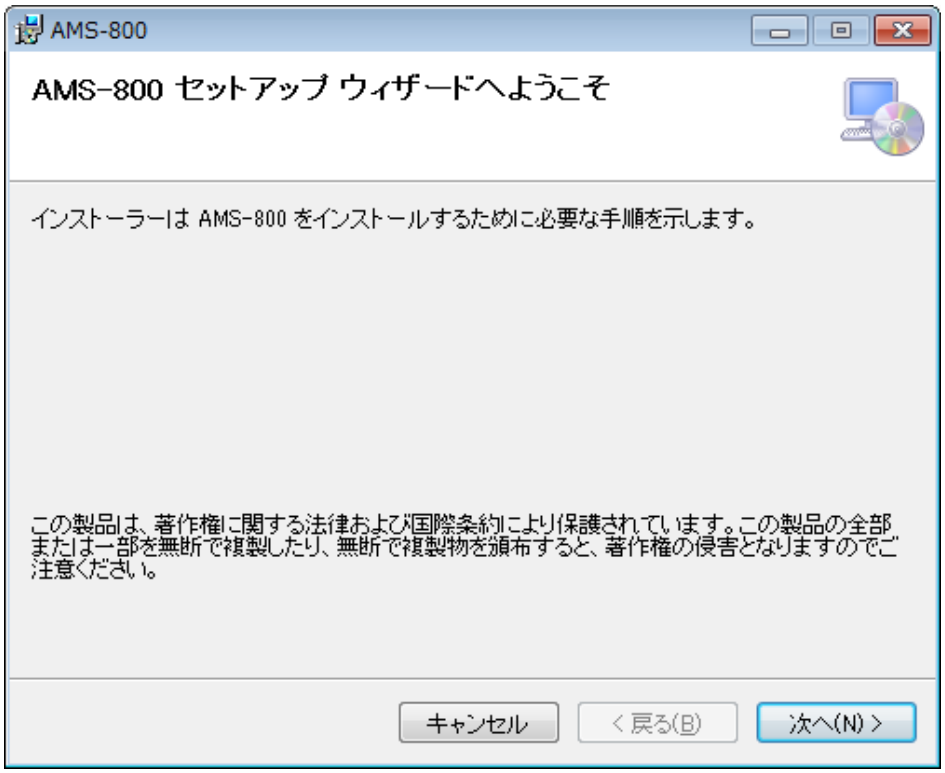
(3) 同意しますと Microsoft .NET Framework 4 がインストールされますが、パソコンの設定によってはインストールの許可を要求されますので、【はい(Y)】をクリックして下さい。

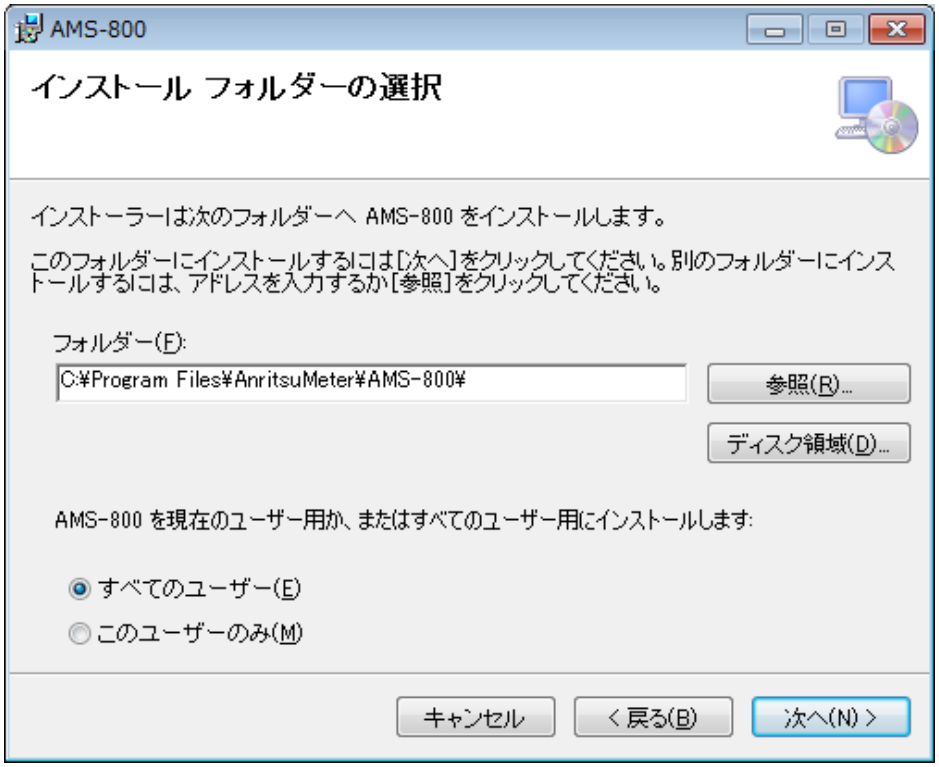


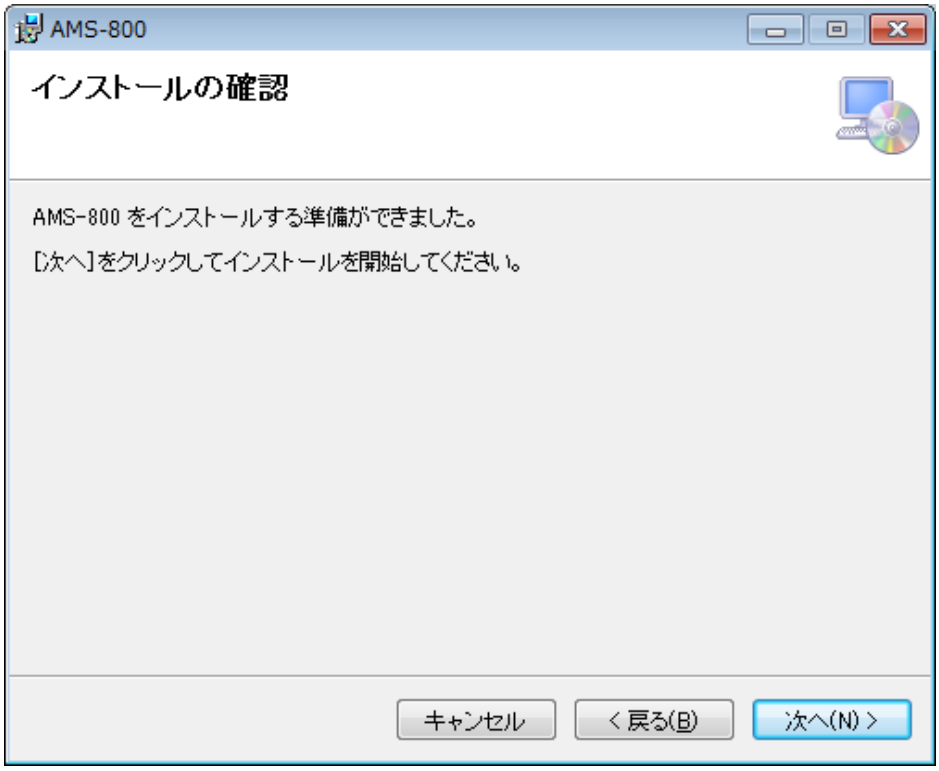
セットアップが開始されます。



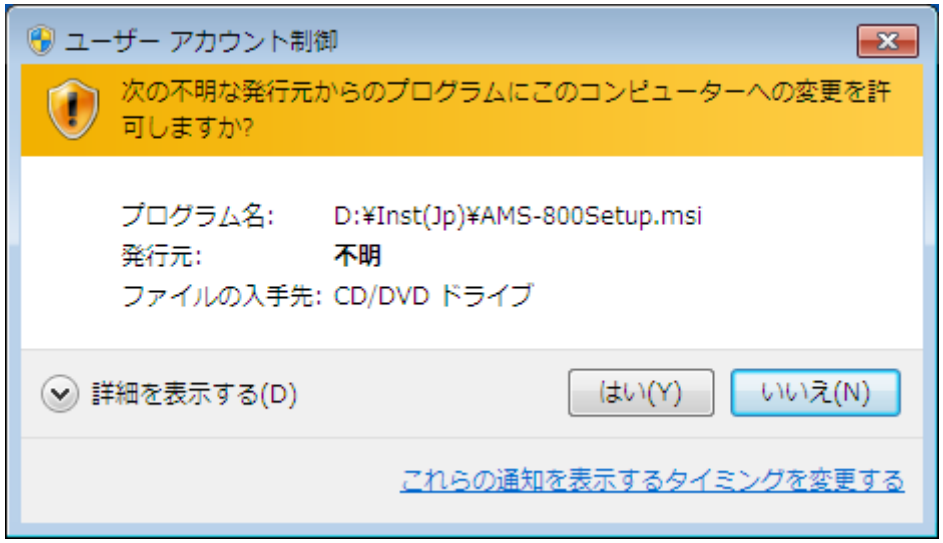
(4) 次に AMS-800 をインストールします。指示にしたがってインストールを行って下さい。

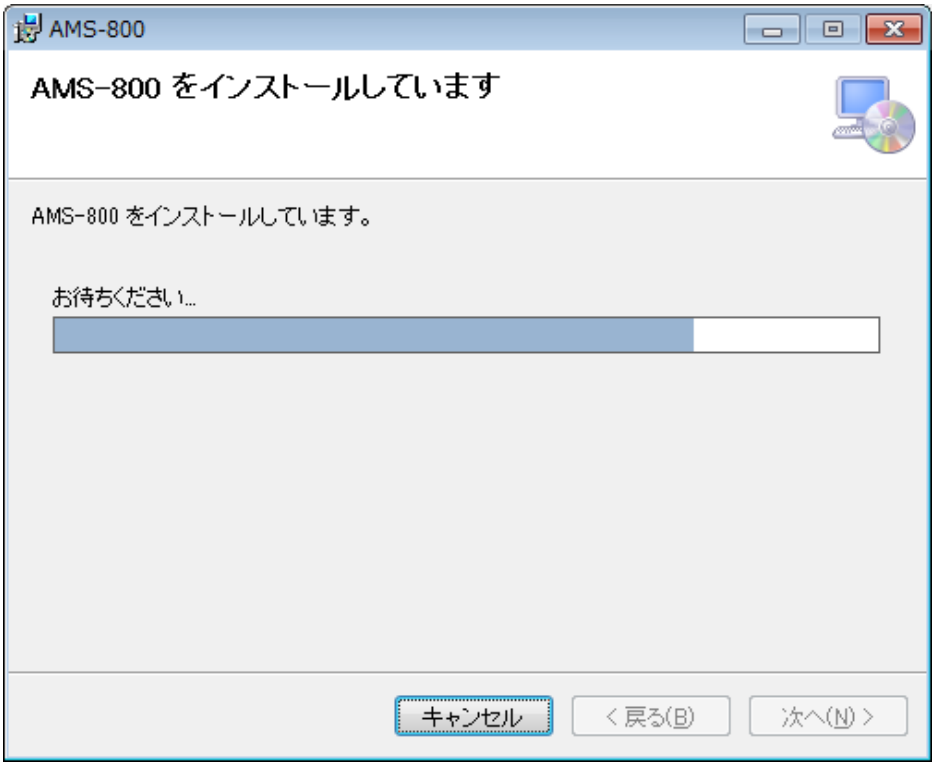




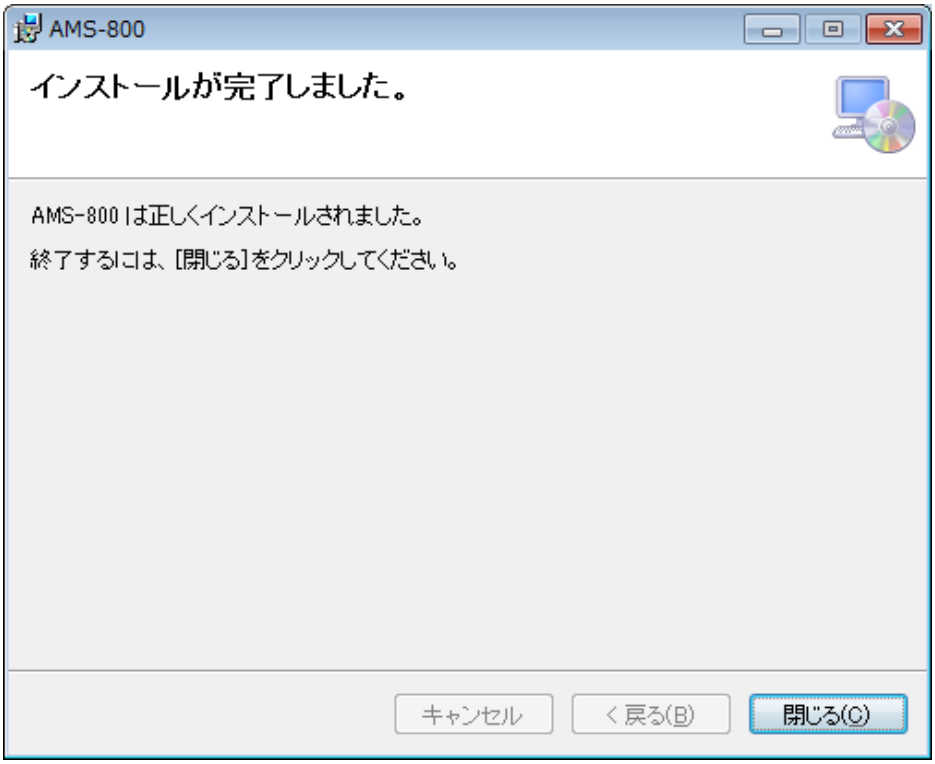


パソコンの設定によっては AMS-800 のインストールの許可を要求されますので、
【はい(Y)】をクリックして下さい。



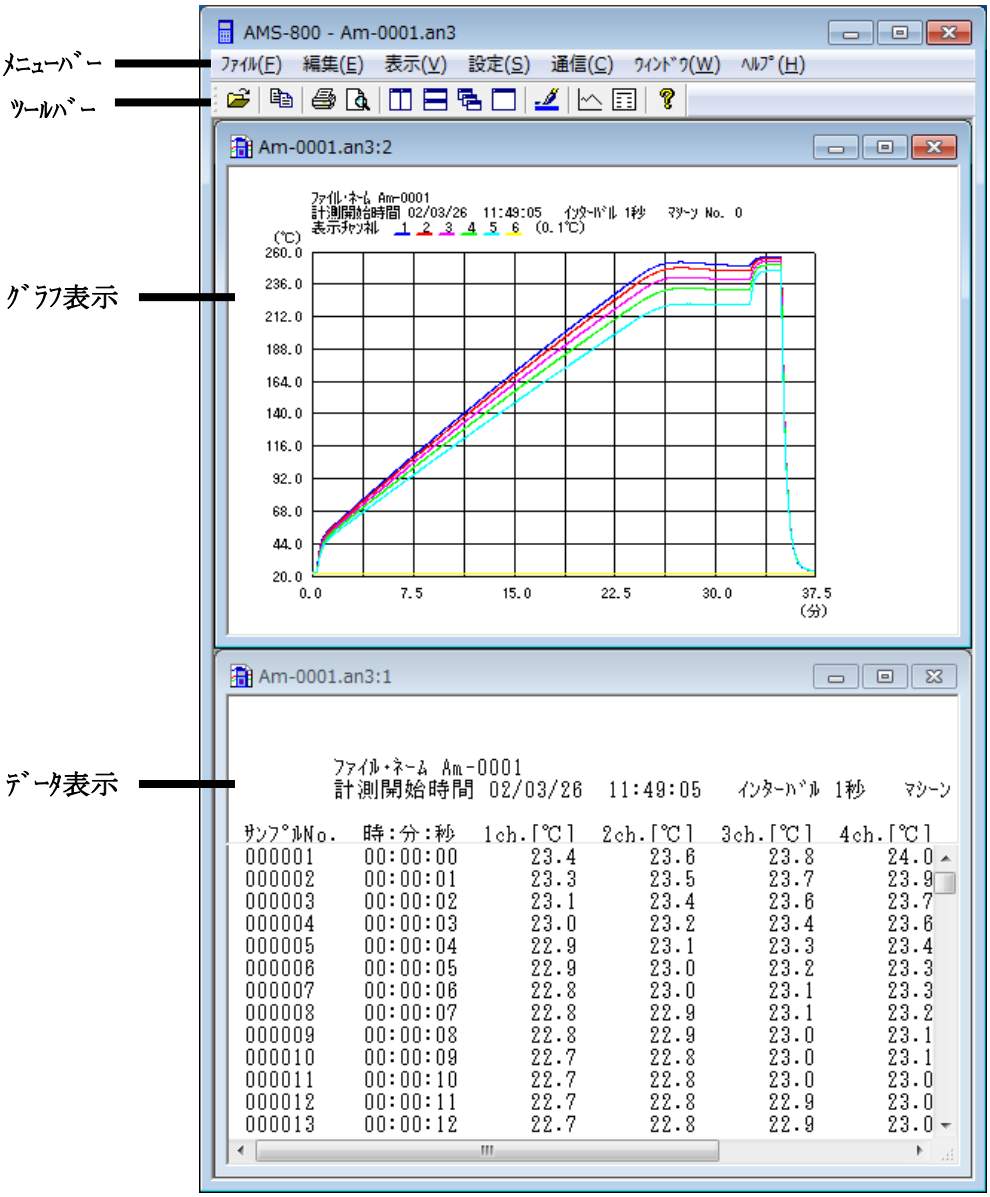


(5) AMS-800 のインストールが完了しましたので、【閉じる(C)】をクリックし完了して下さい。Windows の「スタート」メニューのプログラムに「AMS-800」が登録されます。また、デスクトップ上にショートカットが作成されます。



7　画面構成

7.1　メイン画面の名称とはたらき



メニューバー：　機能の設定または計測等を行うことができます。
ツールバー　：　使用頻度の高い機能をボタン化してあります。
グラフ表示　：　計測したデータをグラフ表示します。
データ表示　：　計測したデータを一覧表示します

7.2　操作方法

＜マウスによる操作＞

メニューバーやツールバーの項目の上でマウスの左ボタンを押すと項目を選択することができます。
また，データ表示またはグラフ表示の画面ではマウスのスクロール機能が使用できます。

＜キーボードによる操作＞

キーボードを使用してもマウスと同様にメニューバーやツールバーの項目を選択することができます。
メニューバーの項目の右側に“ファイル（F)”のようにアルファベットの記号がついていますので下記の操作を行います。

・メニューバー　　：**ＡＬＴ（ＧＲＰＨ）＋記号**
（ファイル（F），通信（C）など）

・プルダウンメニュー：　**記号**　　（開く（O），印刷（P）など）

・ＴＡＢ キー　　：　入力箇所を移動させます。
（ダイアログボックス内の項目間を移動するときなど）

8 ソフトの操作方法

8.1 通信ポートの設定

●【通信(C)】メニューより通信に使用するパソコンのポートを選択して下さい。
ＵＳＢを使用される場合にはＵＳＢを選択して下さい。

※シリアルポートの番号がわからない場合や USB の接続を確認する場合には下記の操作を行って下さい。

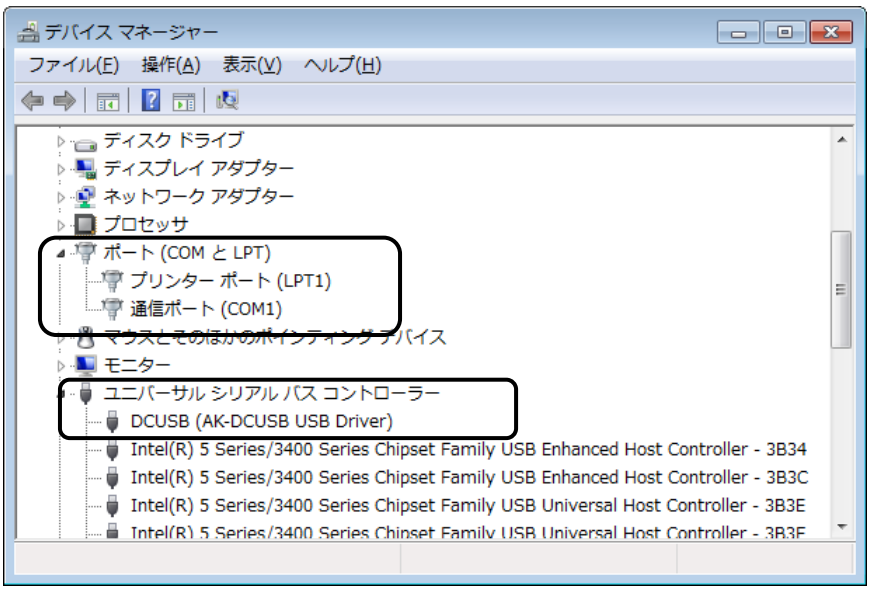
① 計測器とパソコンを通信ケーブルで接続し、計測器の電源を入れて下さい。

② ディスクトップ上のマイコンピュータの上でマウスの右ボタンを押し、【プロパティ】を選択して下さい。

③ デバイスマネージャを表示し、以下の項目を確認して下さい。

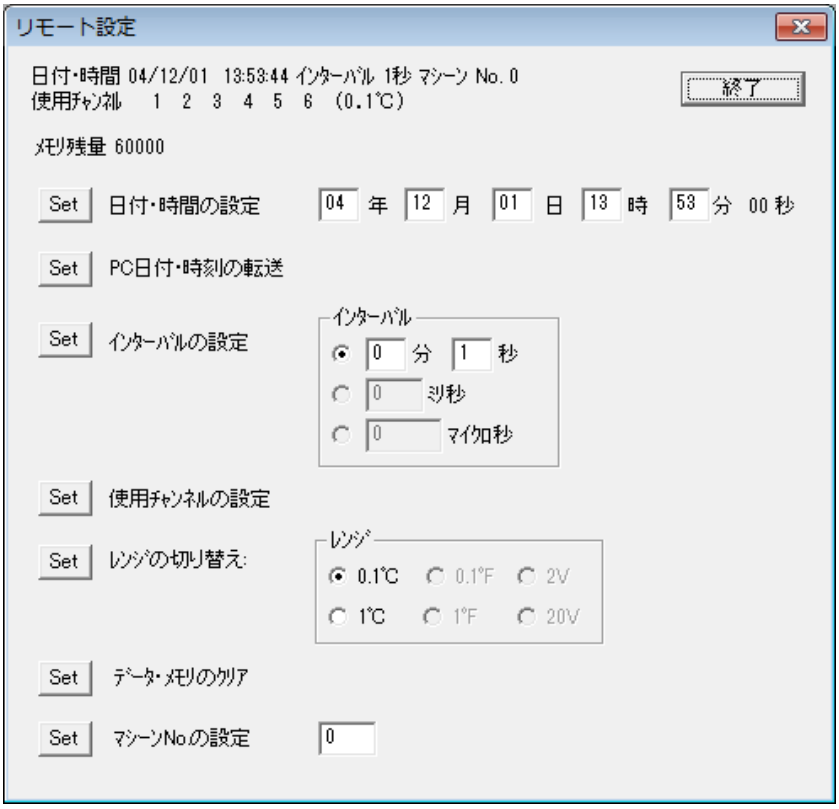
・RS-232C 通信の場合にはポートのＣＯＭの番を確認して下さい。

・USB 通信の場合にはユニバーサルシリアルバスコントローラに DCSUB が表示されていることを確認してください。表示されていない場合にはもう一度ケーブルをさし直して下さい。



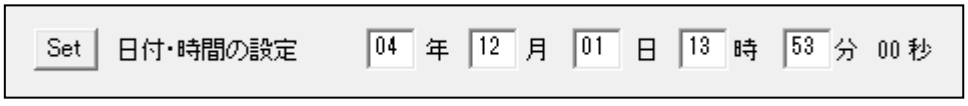
8.2　計測器の各種設定の変更方法

①　計測器とパソコンを通信ケーブルで接続し、計測器の電源を入れて下さい。
②　【通信(C)】メニューより【リモート設定(R)】を選択して下さい。



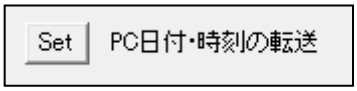
(a)　時計の設定

＜手動設定の場合＞



日付・時間の設定の入力欄に数値を入力し、左側のプッシュボタン(Set)を押して下さい。※年は西暦の下二桁を入力して下さい。

＜パソコンの時計を利用する場合＞



PC 日付・時刻の転送の左側にあるプッシュボタン(Set)を押して下さい。パソコンに内蔵されている日付と時間がセットされます。

(b)　計測間隔(インターバル)の設定

計測する間隔（インターバル）を設定します。

・インターバルを入力後プッシュボタン(Set)を押して下さい。

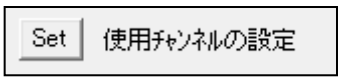
※計測器の機種によっては，ミリ秒，マイクロ秒の設定もできるようになりますが，プッシュボタン(Set)を押したときに送信されるデータはラジオボタンにマークのついている項目の時間です。
※時間単位が複数選択可能な機種の場合にはご注意ください。

尚，各機種毎の設定可能なインターバルタイムは次の通りです。

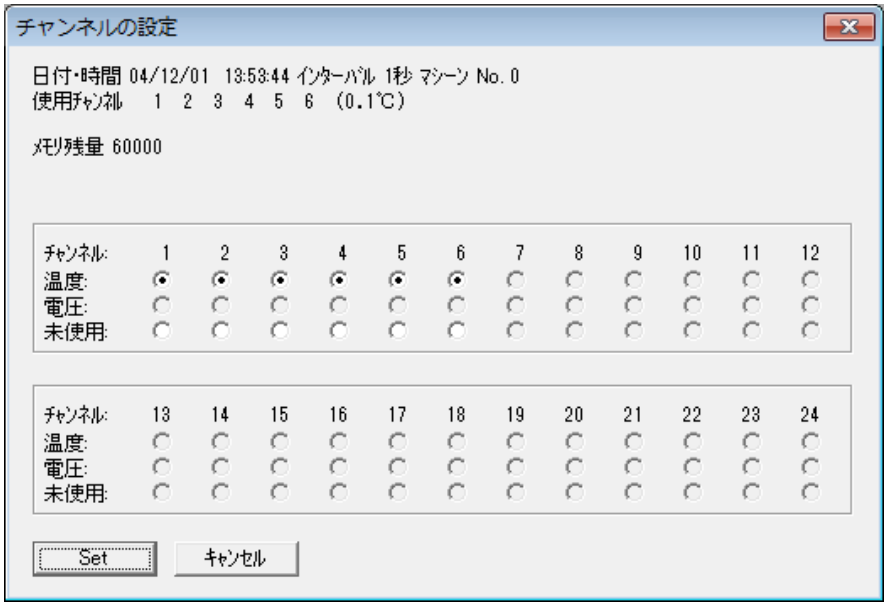
機種	インターバル
AM-8000，AM-8050，AM-8010 AM-8060，AM-8100，AM-8150 AM-8110，AM-8160 AM-7002，AM-7052，AM-7102	1～99 分 59 秒（1 秒毎）
AM-7012，AM-7062，AM-7112	2 秒～99 分 59 秒（1 秒毎）
AM-8001，AM-8051，AM-8111 AM-8161 AM-7102HS	1 秒～99 分 59 秒（1 秒毎） 100 ミリ秒～900 ミリ秒 （10 ミリ秒毎）
AM-8010，AM-8011，AM-8060 AM-8061，AM-8110，AM-8011 AM-7002HS，AM-7052H，AM-7112HS	1 秒～99 分 59 秒　（1 秒毎） 200 ミリ秒～900 ミリ秒 （10 ミリ秒毎）
AM-7012HS，AM-7062HS	1 秒～99 分 59 秒　（1 秒毎） 400 ミリ秒～900 ミリ秒 （10 ミリ秒毎）

(c)　使用チャンネルの設定

計測に使用するチャンネルを設定します。



① 使用チャンネルの設定項目のプッシュボタン(Set)を押すとチャンネル設定画面が表示されます。
② 各チャンネルのモード（温度，電圧，未使用）を選択して【OK】を押して下さい。（使用できるチャンネル数やモードは機種によって異なります。）



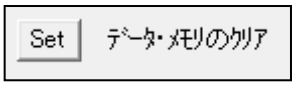
(d)　計測時の分解能を設定する

データの分解能を設定します。

・希望のレンジを選択してプッシュボタン(Set)を押して下さい。
（機種によって選択できるレンジが異なります。）

(e)　メモリのクリア方法

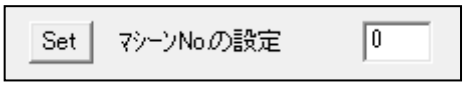
計測器のメモリに記憶されているデータを全てクリアします。



・プッシュボタン(Set)を押して下さい。
※必要なデータはパソコン内に保存してから行って下さい。

(f)　マシン No の設定

計測器にマシン No.を設定します。

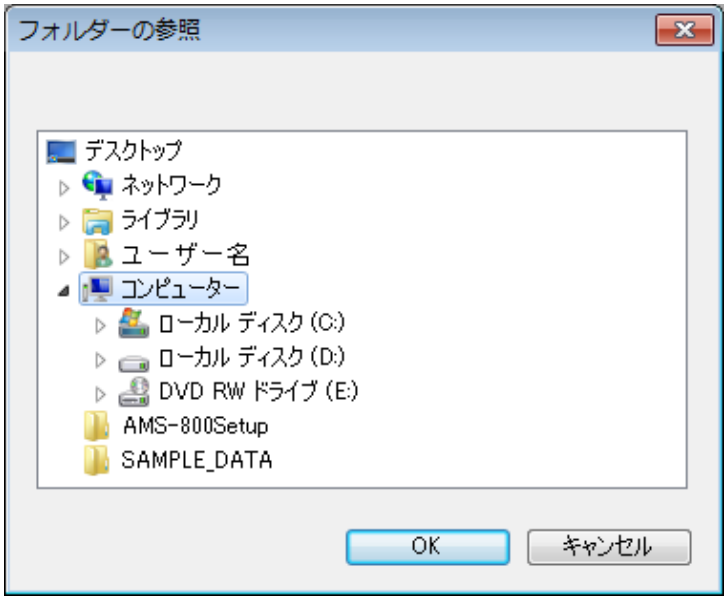


・マシン No.を入力してプッシュボタン(Set)を押して下さい。
※設定できるマシン No.は 00～99 です。

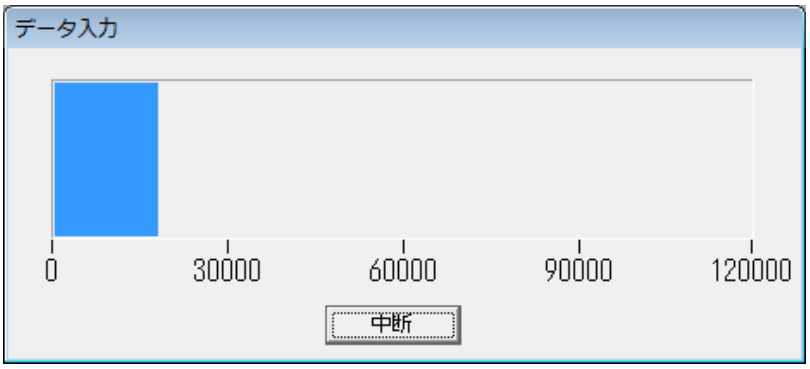
8.3　計測器からデータを吸い上げる方法

計測に保存してあるデータをパソコンに吸い上げファイルを作成します。

① 計測器とパソコンを通信ケーブルで接続し、計測器の電源を入れて下さい。
② 【通信(C)】メニューより【データ入力(I)】を選択して下さい。
③ データの保存先を指定し、【OK】を押して下さい。



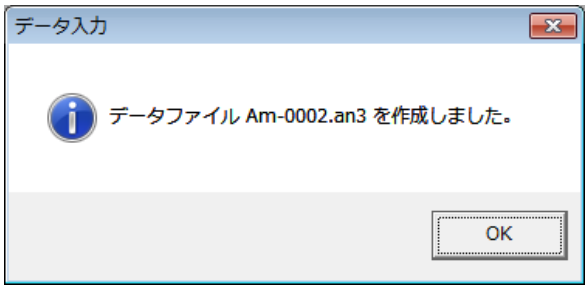
通信中は下記のように転送バーが表示され、データの転送状況を確認することが出来ます。【中断】を押すと通信が中断され、ファイルは作成されません。



※通信中は計測器のキー操作を行わないで下さい。
異常終了・誤動作等の原因となる場合があります。

※データ入力後も計測器側のデータは保存されていますので，通信エラー等があった場合には再度データ入力を行って下さい。

データの入力が全て完了すると、新たに作成されたデータファイルが表示されます。



(a) ファイル名について

ファイル名は Am-****.an2 となります。
****の部分は各ディレクトリ毎に 0001 から 9999 までの番号が順に付けられます。また、ファイルを消去してもその他のファイル番号は変化しません。
例えばハードディスクに 9999 番までのファイルが保存されているときに、0001 から 9998 までのファイルを消去しても 9999 のファイルが残ることになります。この場合、最大番号（9999 番）のファイルが保存されているので、このディレクトリにこれ以上のデータを保存することはできません。
このディレクトリに新たにデータを格納したい場合は、ファイル名の変更などを行って下さい。
（例）
“Am－9999. An2”を“Am－0001. An2”に変更

(b) ファイルのサイズ

ファイル容量は以下のような構成になっております。

ファイル容量　＝（ヘッダ部）＋（データ部）×（データ数）

・ヘッダ部（計測に関する情報）　＝ １０２４バイト
・データ部（１チャンネル１データにつき）　＝ ２バイト

（例 1）データ数が３０００データの場合
（ファイル容量）　＝ １０２４ ＋ ２ × ３０００
＝ ７０２４ （バイト）
≒ ７ （キロバイト）

（例 2）データ数が６００００データの場合
（ファイル容量）　＝ １０２４ ＋ ２ × ６００００
＝ １２１０２４ （バイト）
≒ １２０ （キロバイト）

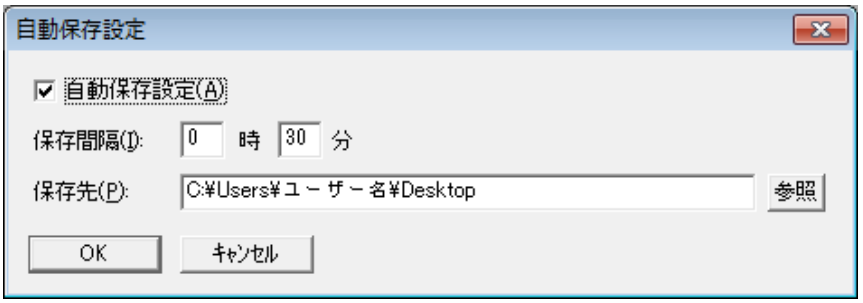
8.4　リアル計測の方法

計測しながらグラフ（データ）表示します。
また、データはファイルに保存されます。

(1)　計測器のインターバルが下表の範囲に入っていることを確認して下さい。
範囲外の場合にはインターバルを変更して下さい。

機種	インターバル
AM-8000 シリーズ全機種 AM-7002　(高速版 HS 含む) AM-7052　(高速版 HS 含む) AM-7012　(高速版 HS 含む)	1 秒～99 分 59 秒
AM-7012　(高速版 HS 含む) AM-7062　(高速版 HS 含む) AM-7112　(高速版 HS 含む)	2 秒～99 分 59 秒

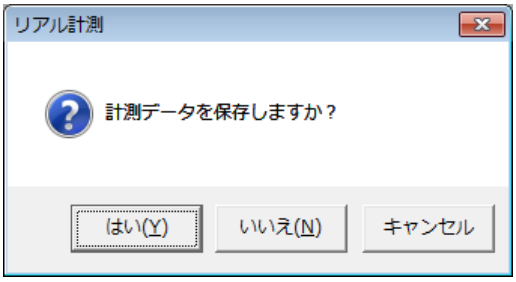
(2)　計測器とパソコンを通信ケーブルで接続し、計測器の電源を入れて下さい。
(3)　【設定(S)】メニューより、【リアルタイムデータの自動保存設定(R)】を選択して下さい。
※リアル計測中に一定の間隔でデータの保存を行います。これによってパソコンの電源が突然切れた場合でも、途中までのデータをバックアップファイルとして残すことが可能です。



①　自動保存の有効／無効を設定して下さい。
②　自動保存する間隔を設定して下さい。
設定範囲は 1 分～23 時 59 分です。
③　保存先を指定して下さい。
自動保存によるファイル名は“日付. dat”になります。
(例)

C:¥AMS-800¥041028.dat
↓
2004 年 10 月 28 日

(4)　【通信(C)】メニューより【リアル計測(M)】を選択して下さい。



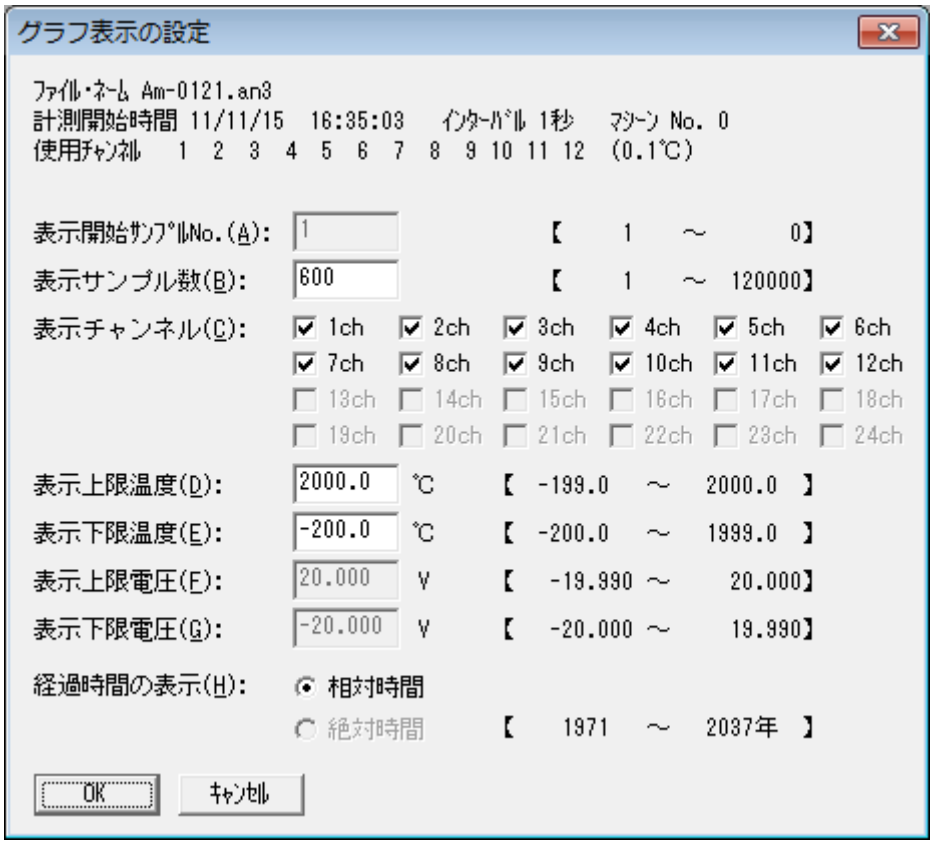
(5)　ファイルを作成する場合は【はい】を押して、保存先を指定して下さい。
ファイルのデータ数が一定量を超えると、新たにファイル番号を１増やし、データの保存を続けます。
※新しいファイルの作成時には計測が一時中断されるため、中断している間の数回分のデータが取得できないことがあります。

1 つのファイルに保存できるデータ数は下表のように計測器によって異なります。

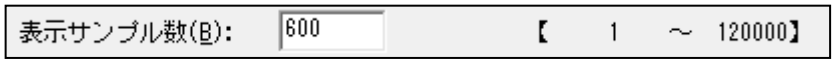
機種	データ数
AM-8000, AM-8001, AM-8050 AM-8051, AM-8100, AM-8101 AM-8150, AM-8151 AM-7002, AM-7052, AM-7102　(高速版 HS 含む) AM-7012, AM-7062, AM-7112　(高速版 HS 含む)	60000 データ
AM-8010, AM-8011, AM-8060 AM-8061, AM-8110, AM-8111 AM-8160, AM-8161	120000 データ

※長期計測によってディスク容量が足りなくなったときには，計測が中断され画面にメッセージが表示されます。

(6)　グラフの表示形式を設定します。



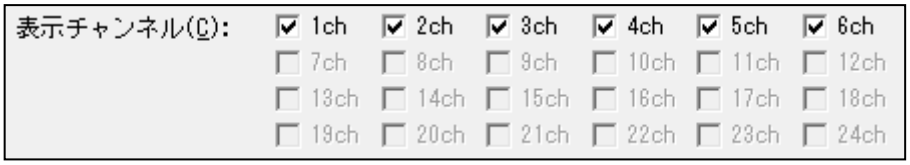
①　表示サンプル数によって横軸の間隔を設定して下さい。



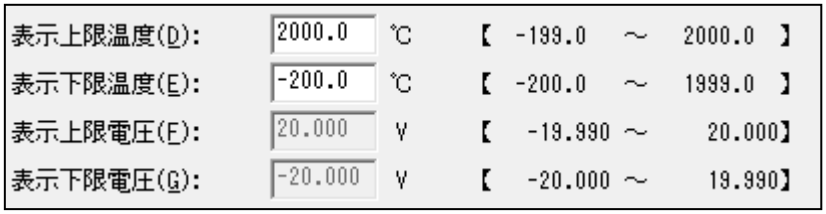
時間から表示サンプル数を割り出す場合には
表示サンプル数＝横軸の最大時間（秒）÷インターバル（秒）

例)1 秒ｲﾝﾀｰﾊﾞﾙで計測しているﾃﾞｰﾀを 60 分間分表示するための表示サンプル数の算出方法
表字サンプル数＝60 分×60(秒)÷1（秒）
＝3600

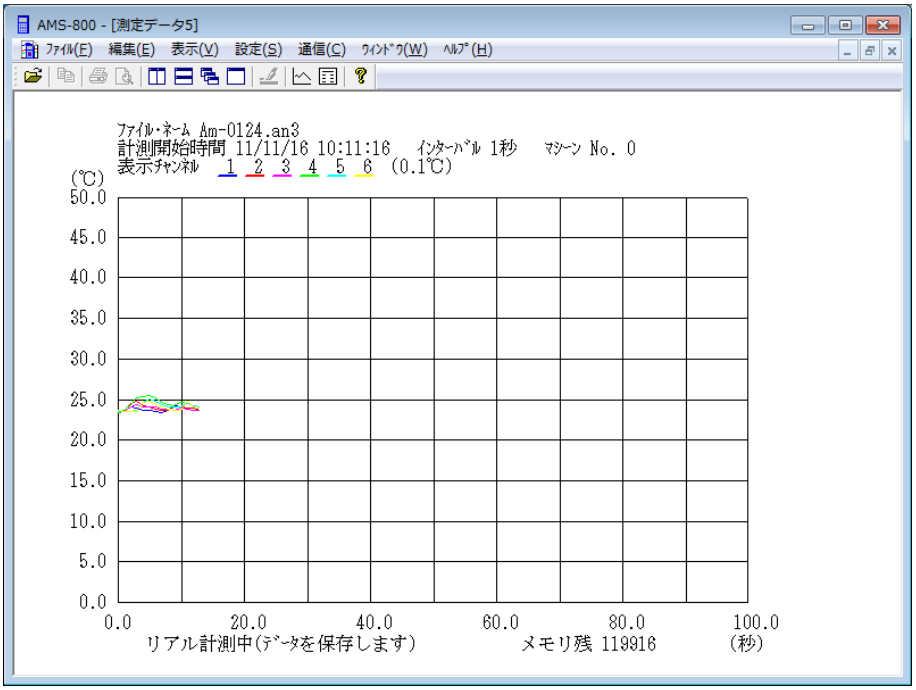
②　グラフ描画するチャンネルを選択して下さい。



③　表示上限値と表示下限値によって縦軸を設定して下さい。
温度と電圧を同時に計測する場合には温度の表示範囲と電圧の表示範囲を個々に設定して下さい。



④　全ての設定を終了したら【OK】を押して下さい。
計測が開始します。

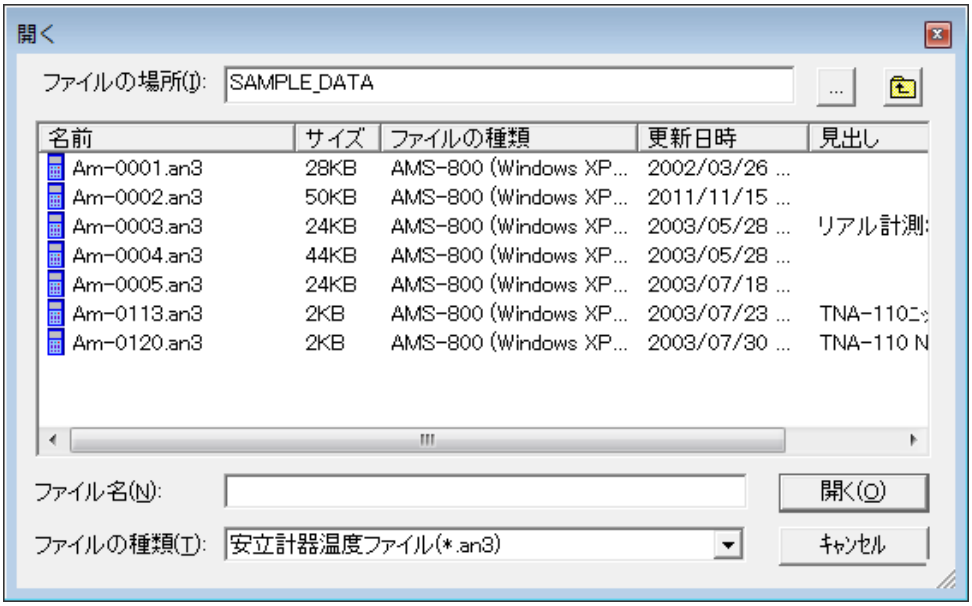


リアル計測を終了するときは、【通信(C)】メニューから【通信中止(Q)】を選択して下さい。

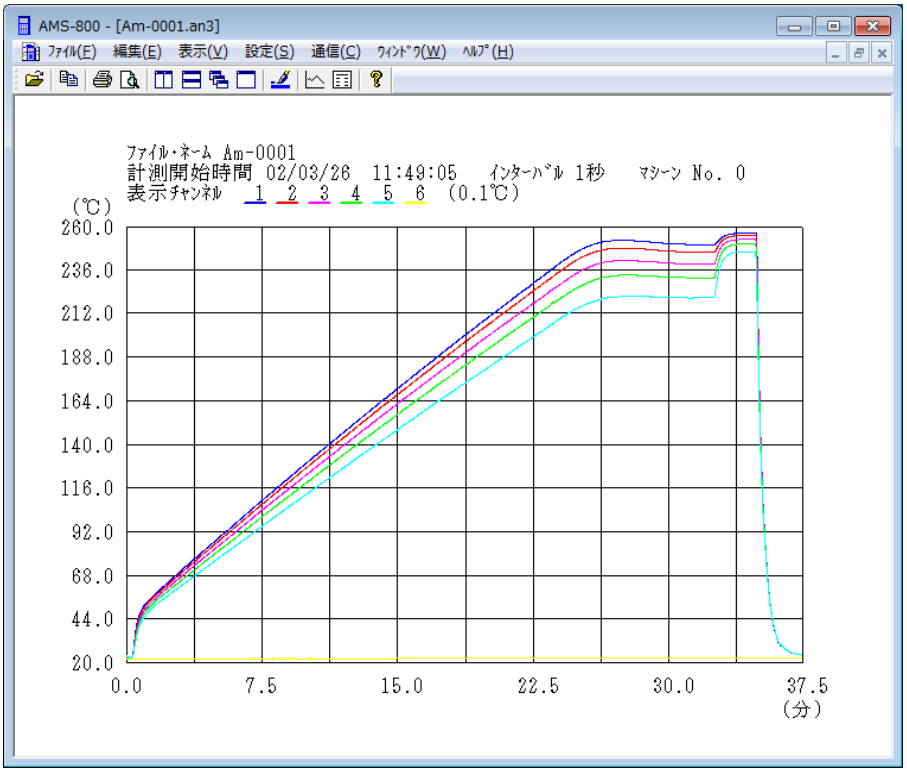
8.5　既存ファイルの読み込みと表示

AMS-800 によって既に保存してあるファイルを開き、グラフ(データ)表示します。

①　【ファイル(F)】メニューより、【開く(O)】を選択して下さい。



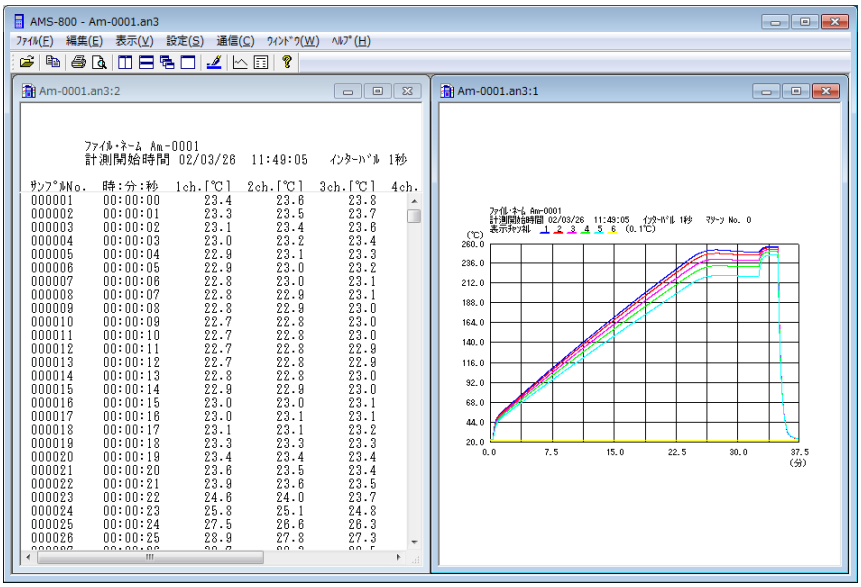
②　ファイルを指定し、【開く】を押して下さい。
※ファイル名の欄に選択したファイル名が表示されていることを確認してから，開いて下さい。



●ツールバーによってグラフ表示とデータ示を切り換えることが出来ます。

＜グラフ表示とデータ表示を同時に見たい場合は＞

・ グラフをアクティブにした状態で、【ウィンドウ(W)】メニューから【新しいウィンドウを開く(N)】を選択して下さい。同じグラフが 2 つ開くので、ツールバーを使用し、一方をデータ表示に切り換えて下さい。



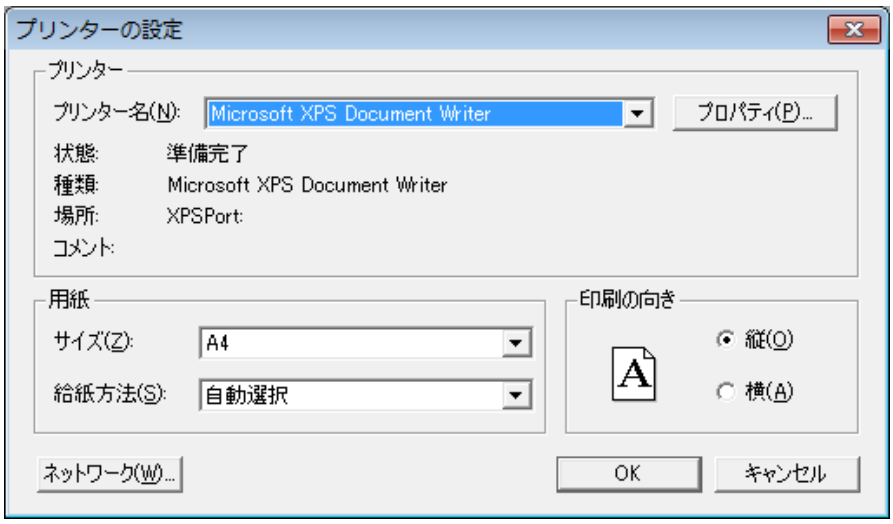
※グラフの表示範囲やグラフの線色・線種を変更したい場合には **8.7 グラフ表示** をご覧下さい。

8.6　印刷の方法

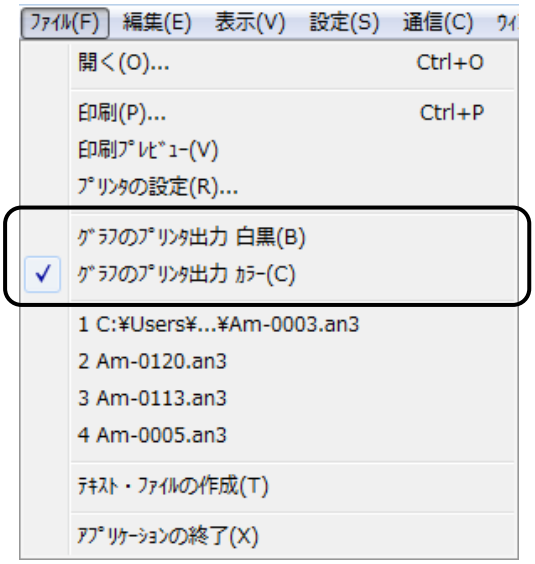
画面に表示されているグラフ、データ、備考などの印刷を行います。

① 印刷する対象物（グラフ、データ表示など）をアクティブにして下さい。
※画面にグラフとデータなど複数の画面が表示されていても印刷は 1 つずつしかできませんのでご注意下さい。

② 【ファイル(F)】メニューより【プリンタの設定(R)】を選択し、設定を行って下さい。

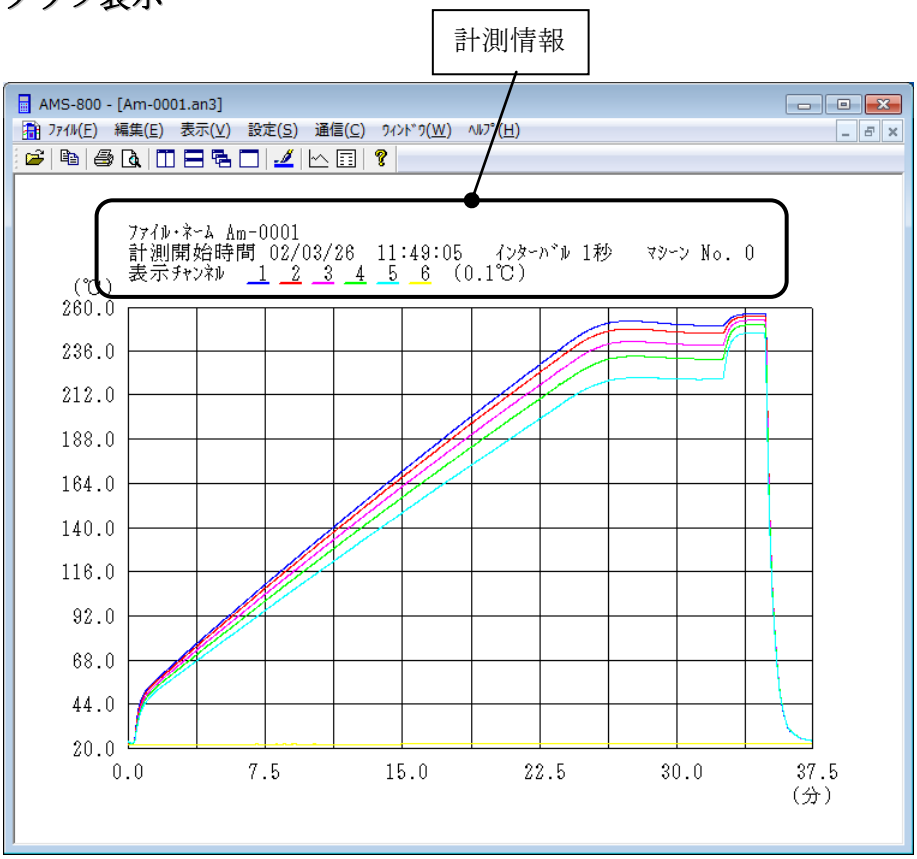


③ 【ファイル(F)】メニューよりグラフのプリンタ出力の種類選択して下さい。
白黒、カラーの設定は，プリンタの機種に依存します。
白黒印刷専用機の中には、淡い色の線を出力できないものがあります。
その場合には白黒を選択して下さい。



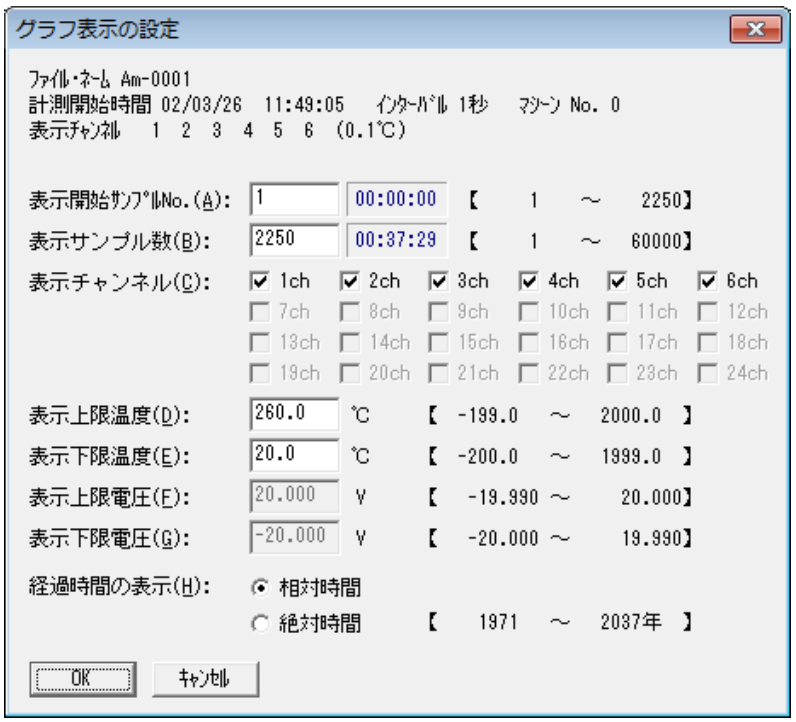
④ 【ファイル(F)】メニューより【印刷(P)】を選択し、【OK】を押して印刷を行って下さい。

8.7　グラフ表示

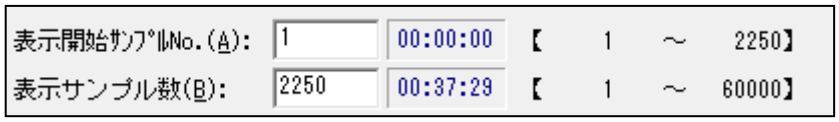


A．表示範囲の設定

● グラフをアクティブにして、【設定(S)】メニューから
【グラフ表示の設定(S)】を選択して下さい。

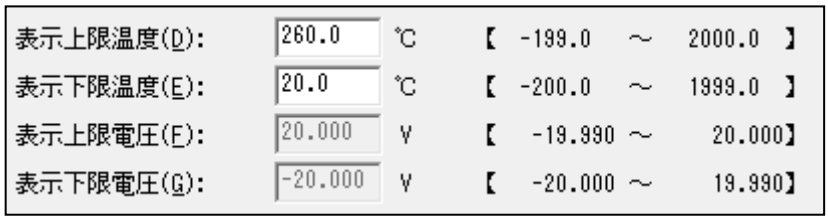


(a)　横軸のスケール変更



①　表示開始サンプル No（A）によって横軸の最小値を設定して下さい。
②　表示サンプル数（B）によって横軸のデータ数を設定して下さい。
※入力欄の右側の時間表示をクリックすると開始時間と終了時間が更新されます。

(b)　縦軸のスケール変更

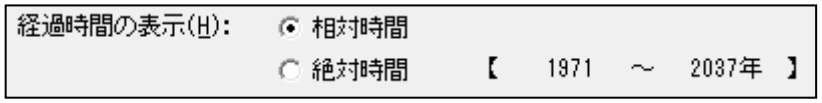


●表示上限値と表示下限値によって縦軸の表示範囲を設定して下さい。
温度の設定は表示上限温度（D）と表示下限温度（E）です。
電圧の設定は表示上限電圧（F）と表示下限電圧（G）です。

(c)　チャンネルの表示／非表示の設定

●チャンネルの表示／非表示を選択して下さい。

(d)　時間表示の選択

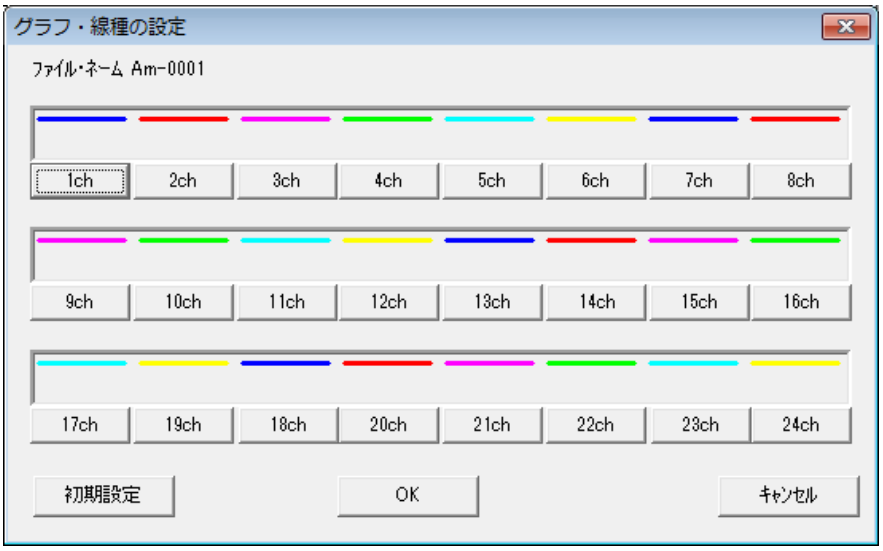


●　時間の表示形式を選択して下さい。
・相対時間は計測開始からの経過時間を表示します。
・絶対時間は計測した日時を表示します。

B．線色と線種の設定

グラフはチャンネル毎に線色や線種を変えて描画することができます。

①　【設定(S)】メニューから【グラフ色・線種(C)】の選択して下さい。



②　設定を変更したいチャンネルのボタンを押して下さい。

③　基本色または色の作成によって好みの色を選択して下さい。

④　線種は実線または波線の一方を選んで下さい。

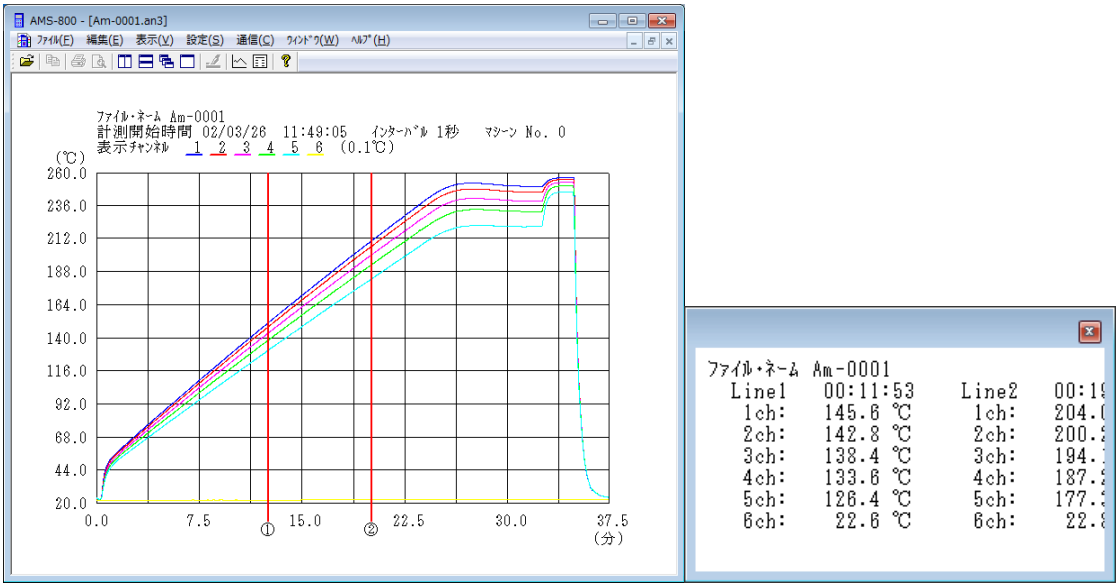
⑤　マーカーは好みのものを選択して下さい。

C．拡大表示するには

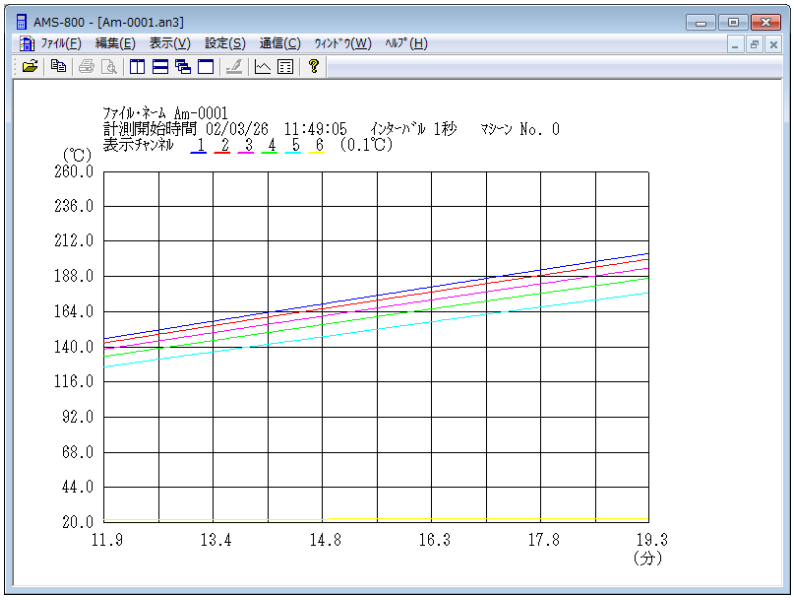
(a)　拡大の方法

①　【表示(V)】メニューから【選択範囲の拡大(E)】を選択して下さい。

②　赤色の拡大バー①、②の数字の上でマウスの左ボタンを押しながらマウスを動かすとバーが移動しますので、拡大したい範囲を囲んで下さい。



③　マウスの右ボタンを押し、【拡大表示】を押して下さい。
拡大バー①と②で囲まれた範囲のグラフが拡大されます。また、同時に①と②の位置のデータが表示されます。



(b)　拡大表示を元に戻すには

●【表示(V)】メニューから【表示範囲を戻す(M)】を選択して下さい。
元のサイズのグラフに戻ります。

D．横軸のスクロール方法

①　【表示(V)】メニューから【グラフスクロール(S)】を選択して下さい。

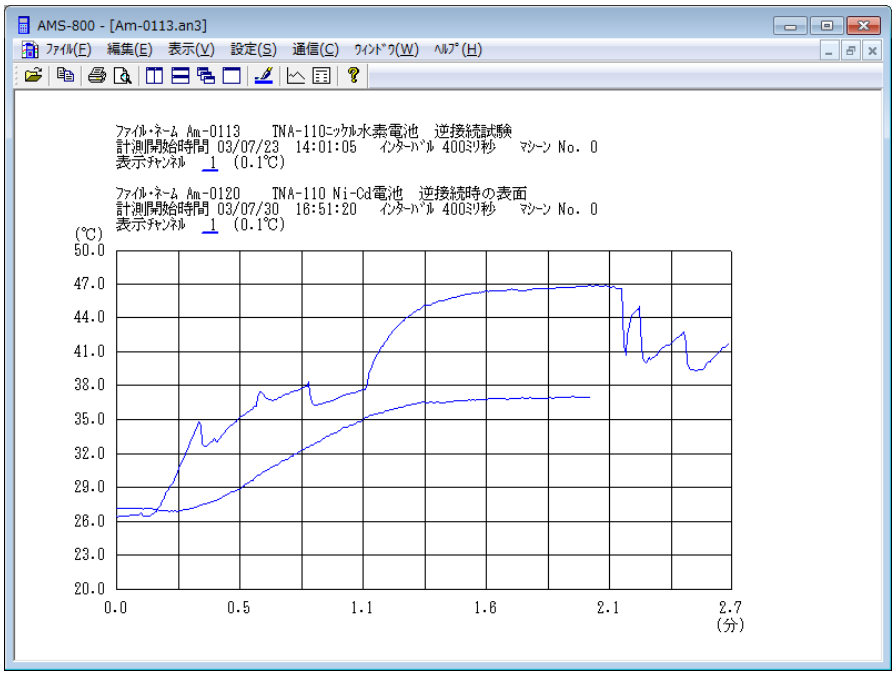
②　ゲージをドラッグしながら左右に移動して下さい。
横軸が移動しますので好きな場所のグラフを見ることができます。

E．２つのグラフを合成する方法

２つの異なるファイルを１つに合成してグラフ表示します。

①　１個目のファイルを開いて下さい。(参照 8.5 項)

②　【編集(E)】メニューから【ファイル合成】で２個目のファイルを選択し、【開く】を押して下さい。２つのファイルのデータが合成されて表示されます。



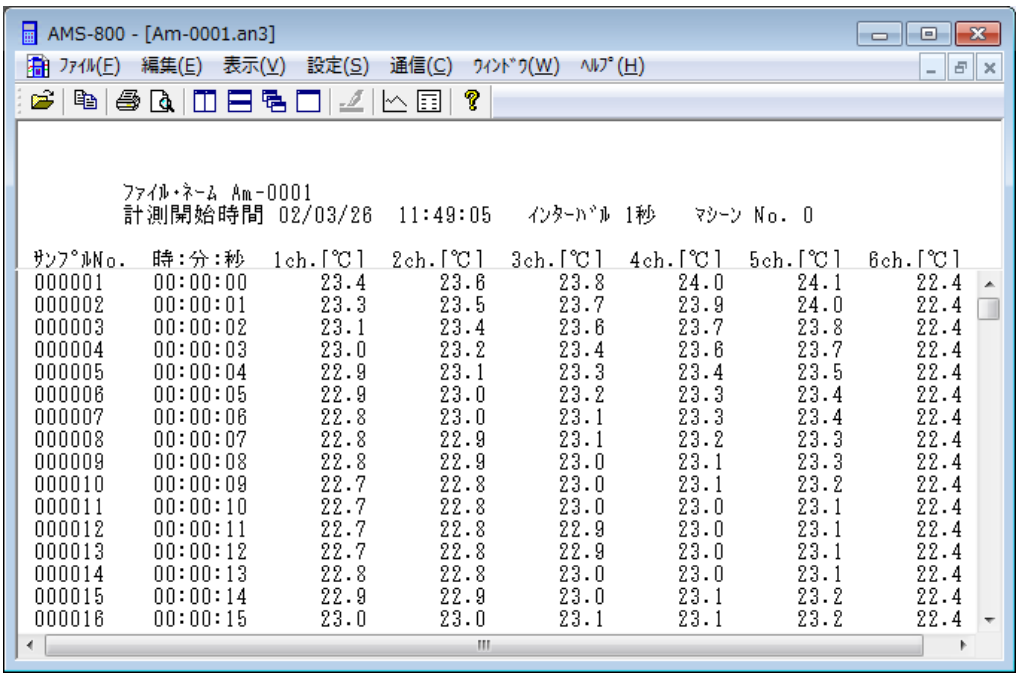
※次のファイルについては合成することはできませんのでご注意下さい。

マニュアル計測のファイル

電圧レンジが 1999.9mV にて計測を行ったデータファイル

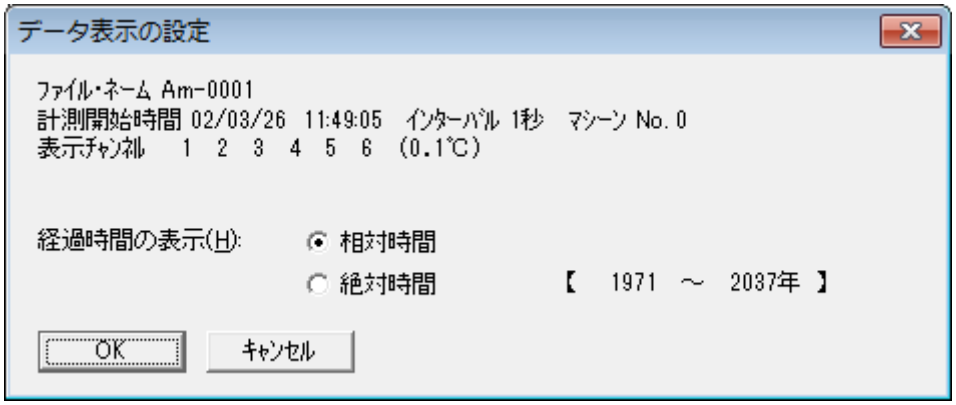
温度単位が℃のファイルとＦのファイルの組み合わせ

8.8　データ表示



A．時間の表示形式の設定

①　【設定(S)】メニューから【データ表示の設定(D)】を選択して下さい。



②　時間の表示形式を選択して下さい。

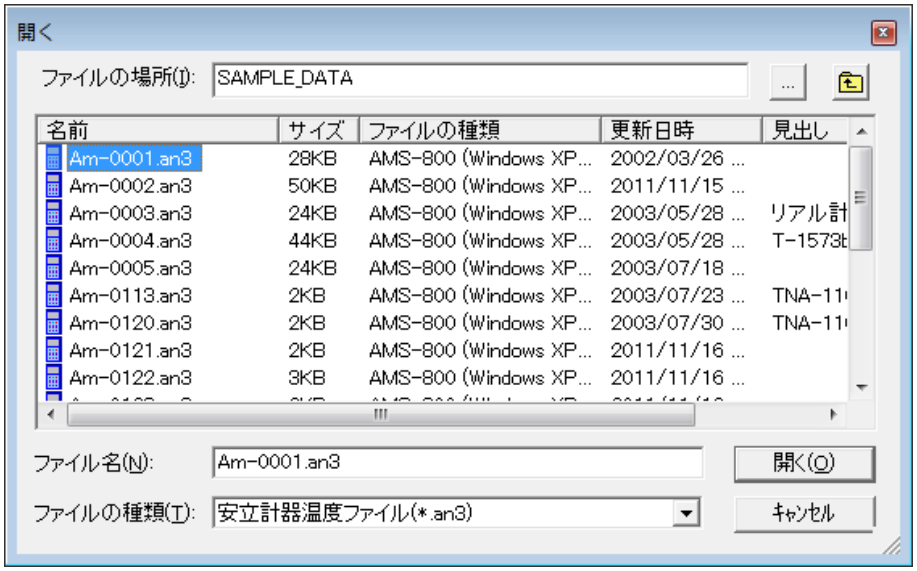
・相対時間は計測開始からの経過時間を表示します。

・絶対時間は計測した日時を表示します。

8.9　表計算ソフトで使用するには

本ソフトウェアで作成したデータファイルをファイル変換することで
Excel 等の表計算ソフトで使用することができます。

(1)　【ファイル(F)】メニューから【テキストファイルの作成(T)】を選択して下さい。

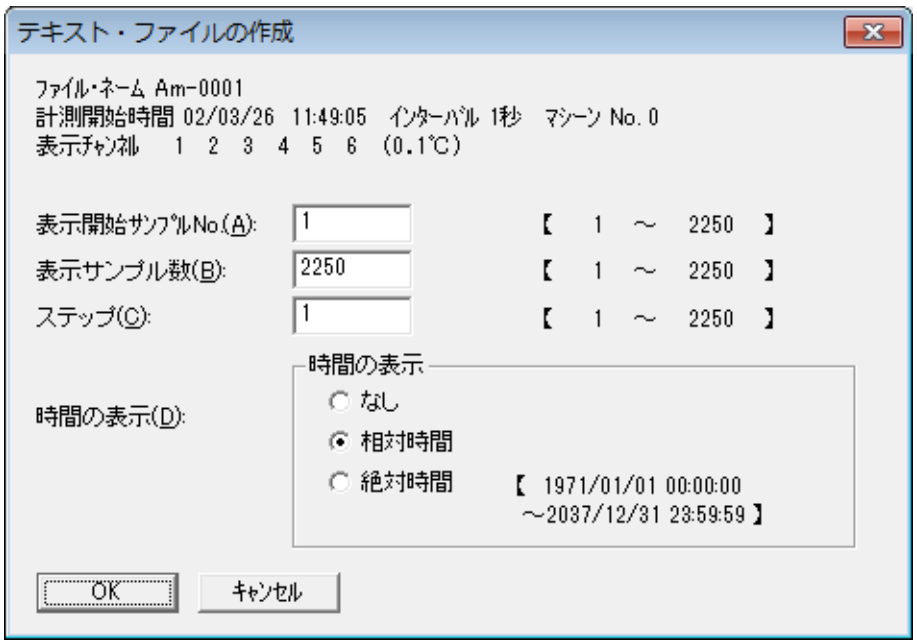


(2)　変換したいファイルを指定し、【開く】を押して下さい。
変換後のファイルは，変換元のファイルと同じディレクトリに作成されます。また，ファイル名は変換元のファイル名の拡張子を“．ｃｖｓ”に変えた名前になります。

（例）

変換元ファイル　　C:¥Ams-800¥Data¥Am－0001．an3
変換後ファイル　　C:¥Ams-800¥Data¥Am－0001．cvs

(3)　テキストファイルの保存形式を設定します。



①　何番目のデータからテキストファイルを作成するか設定して下さい。

②　１つのファイルに保存するデータ数を設定して下さい。
実際に作成されるデータ数は，
（データ数）　＝ 表示データ数 ／ ステップ数
と，なります。

③　データファイルから間引きしてテキストファイルを作成する場合にはステップを設定して下さい。
※表計算ソフトによっては一度に読み込み可能なデータ数が決められていますので，多量のデータに関しては，前記の設定にて間引きや分割を行って下さい。

④　テキストファイルを作成した際に表示される時間の形式を選択して下さい。

・相対時間は計測開始からの経過時間を表示します。
・絶対時間は計測した日時を表示します。

※マニュアルモードで計測したデータファイルでは，“相対時間”，“絶対時間”を選択できません。
※計測インターバルが，ミリ秒，マイクロ秒のデータファイルでは，“絶対時間”を選択できません。
※相対時間の表示は，00:00:00～23:59:59（時：分：秒）の範囲内での表示しかできません。２４時間以上の計測データの場合は，この繰り返しになりますのでご了承下さい。
※絶対時間の表示は，1971/01/01 00:00:00～2037/12/31 23:59:59 までのデータでご利用下さい。この期間外のデータでは，日時の表示が行われません。

⑤　テキストファイルをマウスでダブルクリックすると表計算ソフトが起動します。
Excel の場合には下図のサンプルのように表示されます。
Excel の機能を活用することでグラフを作成することも可能です。

＜時間の表示：時間表示なし＞

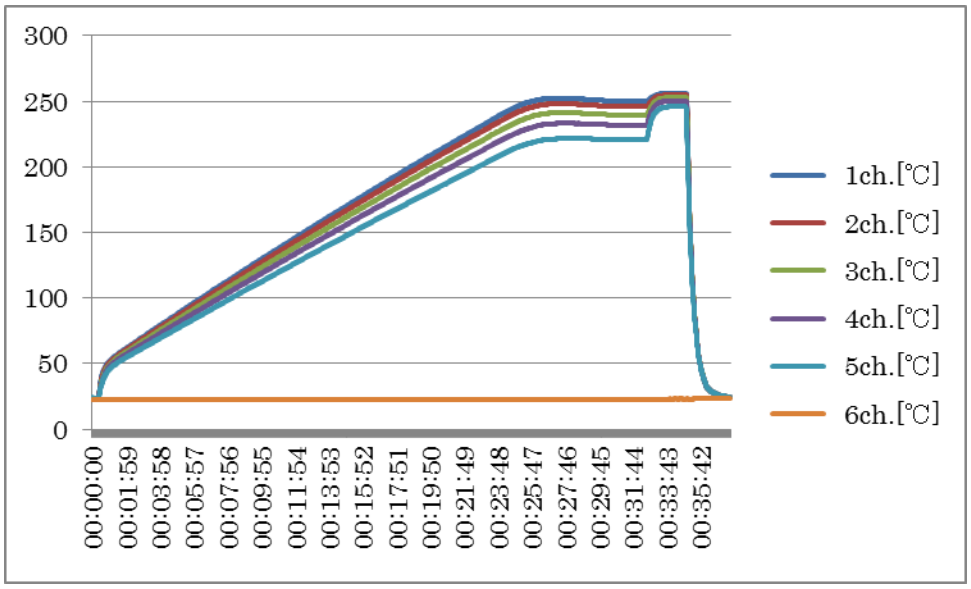
	A	B	C	D	E	F	G
1	ﾌｧｲﾙ･ﾈｰﾑ	Am-0001					
2							
3	測定開始時	2	年	3	月	26	日
4		11	時	49	分	5	秒
5							
6	ｲﾝﾀｰﾊﾞﾙ	0	時	0	分	1	秒
7		0	ﾐﾘ秒	0	ﾏｲｸﾛ秒		
8							
9	ﾏｼｰﾝNo.	0					
10							
11							
12		ﾌｧｲﾙ･ﾈｰﾑ Am-0001					
13		測定開始時間 02/03/26 11:49:05 ｲﾝﾀｰﾊﾞﾙ 1 秒 ﾏｼｰﾝ No.0					
14							
15	ｻﾝﾌﾟﾙNo.	1 ch.[℃]	2ch.[℃]	3ch.[℃]	4ch.[℃]	5ch.[℃]	6ch.[℃]
16	1	23.4	23.6	23.8	24	24.1	22.4
17	2	23.3	23.5	23.7	23.9	24	22.4
18	3	23.1	23.4	23.6	23.7	23.8	22.4
19	4	23	23.2	23.4	23.6	23.7	22.4
20	5	22.9	23.1	23.3	23.4	23.5	22.4
21	6	22.9	23	23.2	23.3	23.4	22.4
22	7	22.8	23	23.1	23.3	23.4	22.4
23	8	22.8	22.9	23.1	23.2	23.3	22.4
24	9	22.8	22.9	23	23.1	23.3	22.4

＜時間の表示：相対時間＞

	A	B	C	D	E	F	G
1	ﾌｧｲﾙ･ﾈｰﾑ	Am-0001					
2							
3	測定開始時	2	年	3	月	26	日
4		11	時	49	分	5	秒
5							
6	ｲﾝﾀｰﾊﾞﾙ	0	時	0	分	1	秒
7		0	ﾐﾘ秒	0	ﾏｲｸﾛ秒		
8							
9	ﾏｼｰﾝNo.	0					
10							
11							
12		ﾌｧｲﾙ･ﾈｰﾑ Am-0001					
13		測定開始時間 02/03/26 11:49:05 ｲﾝﾀｰﾊﾞﾙ 1 秒 ﾏｼｰﾝ No.0					
14							
15	ｻﾝﾌﾟﾙNo.	時:分:秒	1 ch.[℃]	2ch.[℃]	3ch.[℃]	4ch.[℃]	5ch.[℃]
16	1	00:00:00	23.4	23.6	23.8	24	24.1
17	2	00:00:01	23.3	23.5	23.7	23.9	24
18	3	00:00:02	23.1	23.4	23.6	23.7	23.8
19	4	00:00:03	23	23.2	23.4	23.6	23.7
20	5	00:00:04	22.9	23.1	23.3	23.4	23.5
21	6	00:00:05	22.9	23	23.2	23.3	23.4
22	7	00:00:06	22.8	23	23.1	23.3	23.4
23	8	00:00:07	22.8	22.9	23.1	23.2	23.3
24	9	00:00:08	22.8	22.9	23	23.1	23.3

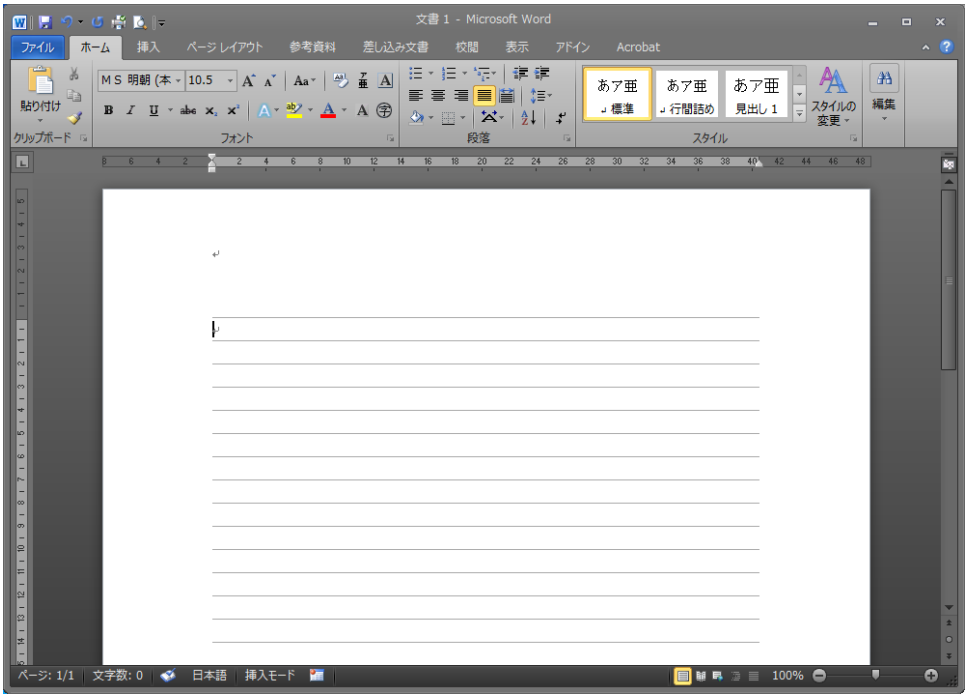
＜時間の表示：絶対時間＞

	A	B	C	D	E	F	G
1	ﾌｧｲﾙ･ﾈｰﾑ	Am-0001					
2							
3	測定開始時	2	年	3	月	26	日
4		11	時	49	分	5	秒
5							
6	ｲﾝﾀｰﾊﾞﾙ	0	時	0	分	1	秒
7		0	ﾐﾘ秒	0	ﾏｲｸﾛ秒		
8							
9	ﾏｼｰﾝNo.	0					
10							
11							
12		ﾌｧｲﾙ･ﾈｰﾑ Am-0001					
13		測定開始時間 02/03/26 11:49:05 ｲﾝﾀｰﾊﾞﾙ 1秒 ﾏｼｰﾝ No.0					
14							
15	ｻﾝﾌﾟﾙNo.	年/月/日	時:分:秒	1ch.[℃]	2ch.[℃]	3ch.[℃]	4ch.[℃]
16	1	2002/3/26	11:49:05	23.4	23.6	23.8	24
17	2	2002/3/26	11:49:06	23.3	23.5	23.7	23.9
18	3	2002/3/26	11:49:07	23.1	23.4	23.6	23.7
19	4	2002/3/26	11:49:08	23	23.2	23.4	23.6
20	5	2002/3/26	11:49:09	22.9	23.1	23.3	23.4
21	6	2002/3/26	11:49:10	22.9	23	23.2	23.3
22	7	2002/3/26	11:49:11	22.8	23	23.1	23.3
23	8	2002/3/26	11:49:12	22.8	22.9	23.1	23.2
24	9	2002/3/26	11:49:13	22.8	22.9	23	23.1
25	10	2002/3/26	11:49:14	22.7	22.8	23	23.1

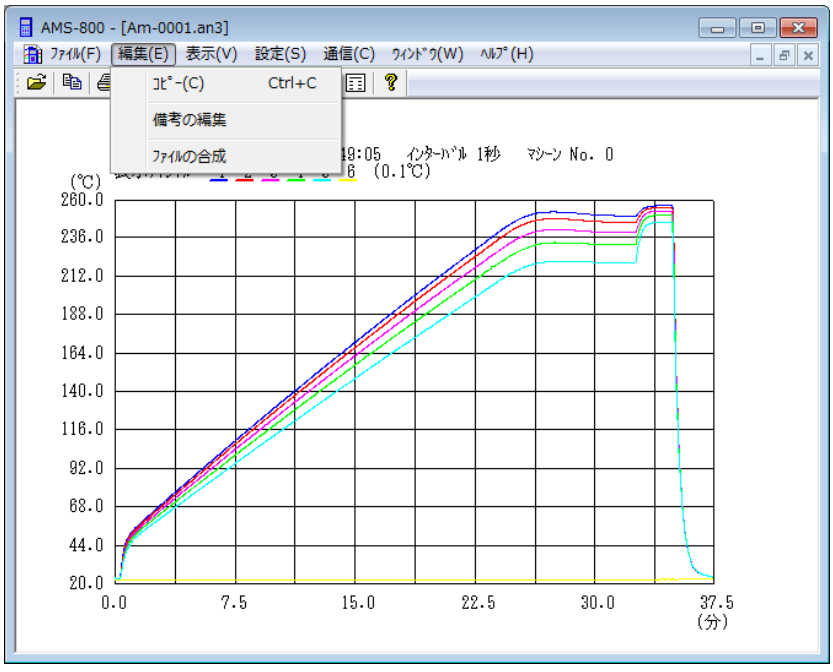


8.10　文書ファイルにデータを貼り付けるには

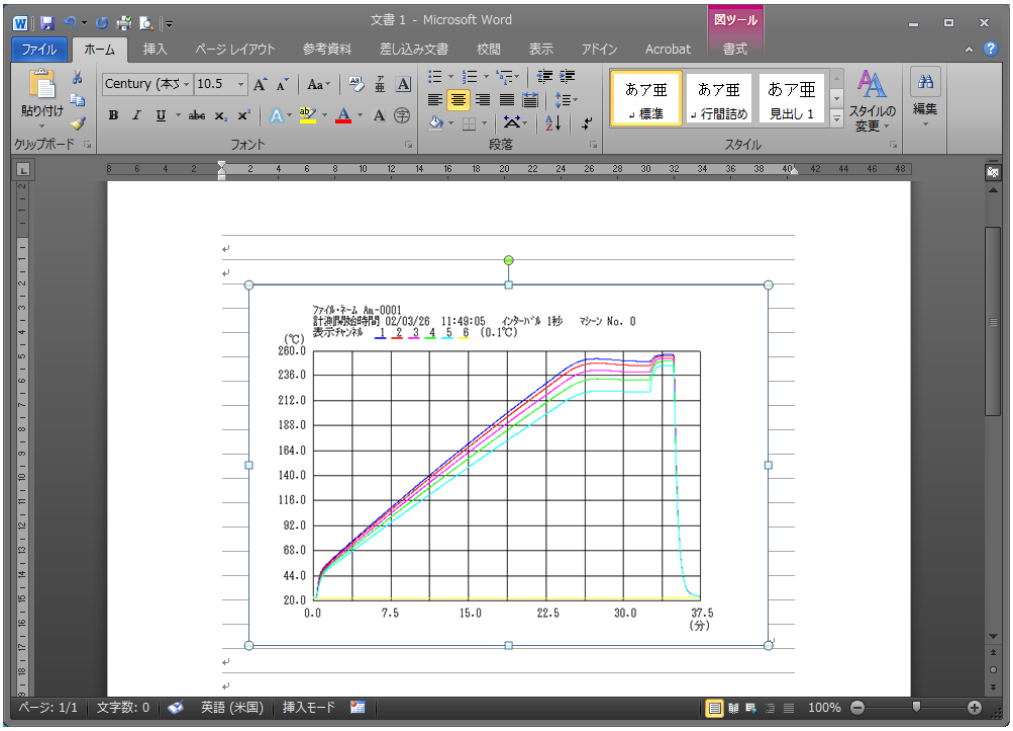
①　Word などの文書ファイルを開いて下さい。
②　AMS-800 を起動し、データファイルを開いて下さい。（参照 8.5）



③　【編集(E)】メニューから【コピー(C)】を選択して下さい。
クリップボードに画面データが取り込まれます。



④　文書中にマウスを移動し、位置を決めて貼り付けを行って下さい。

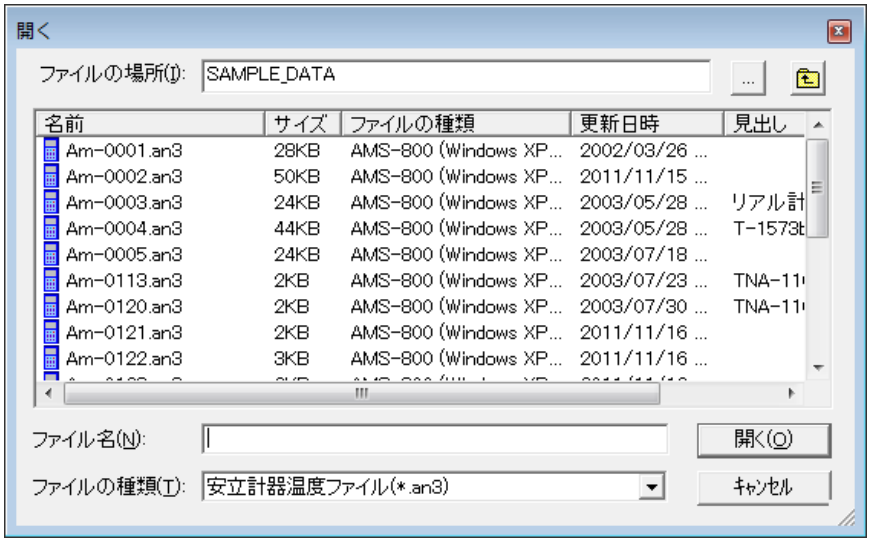


※ Ｗｏｒｄ ２０１０の画面を使って説明いたしますが，他のワープロソフトにおいても同様にしてご利用になれます。

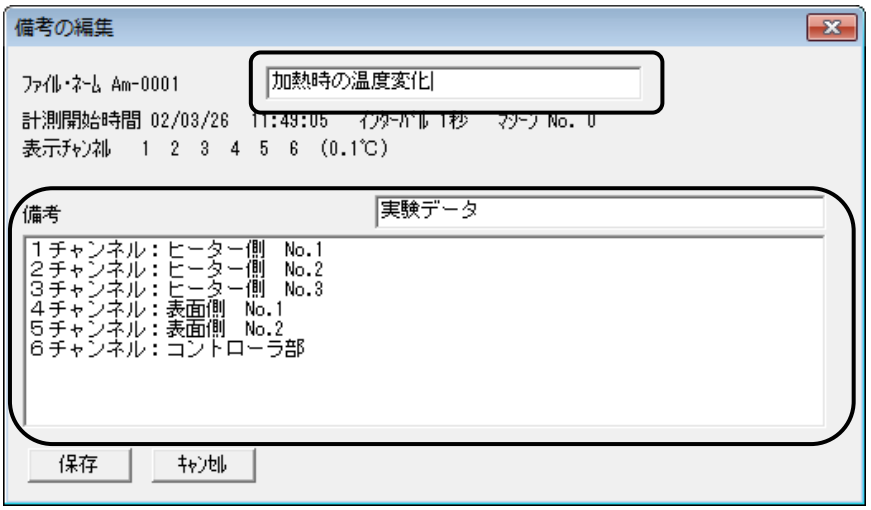
8.11　グラフやデータに見出しを付けるには

A．見出しの作成方法

①　【編集(E)】メニューより【備考の編集】を選択して下さい。

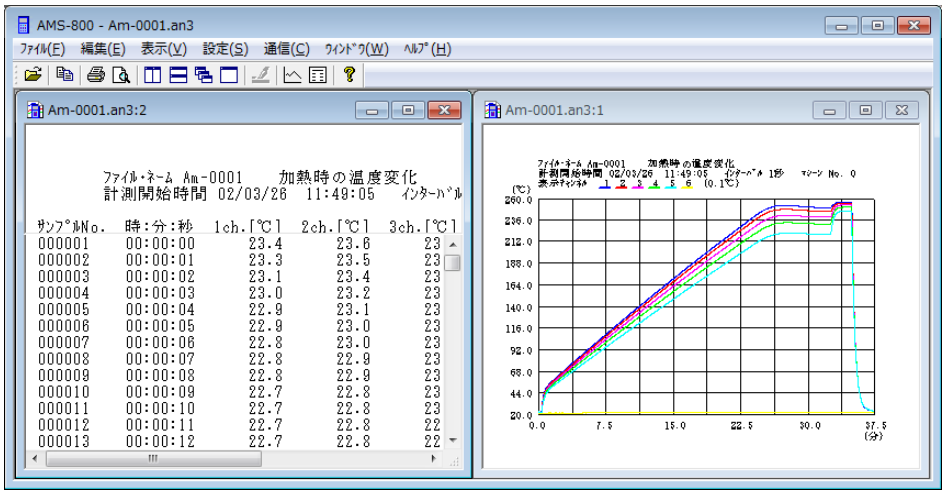


②　ファイル名を指定して【開く】を押して下さい。



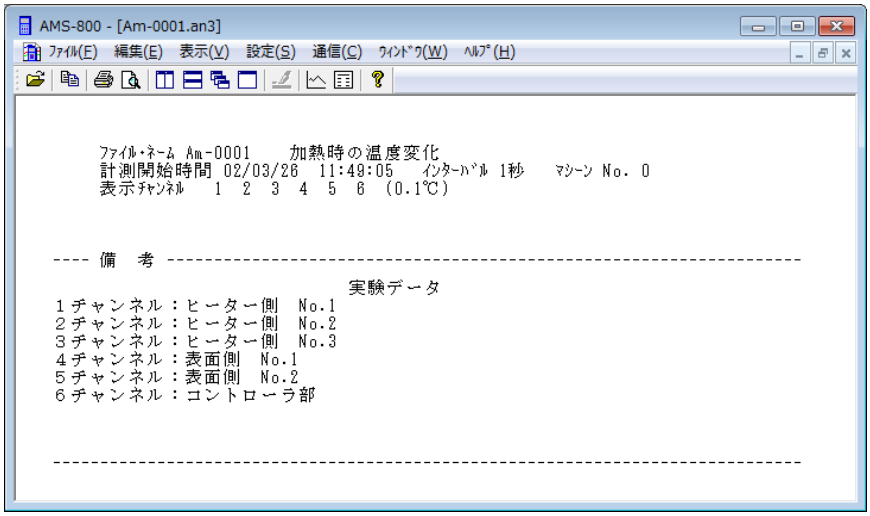
③　収録したファイルのデータ内容，収録時の環境条件等を入力して下さい。

・ファイル・ネームの右横の枠に入力された文字はグラフおよびデータの見出しとして表示されます。またファイルダイアログの見出しの部分にも表示されます。



B．見出しの確認方法

●【表示(V)】メニューから【備考の表示(R)】を選択して下さい。



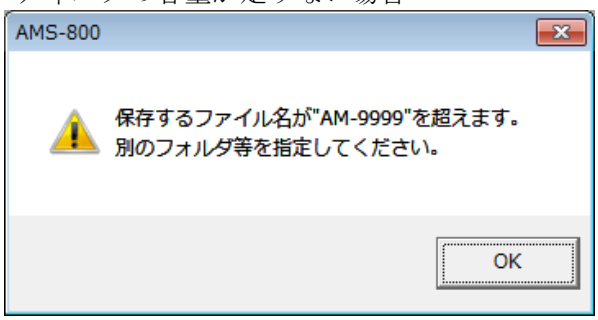
9　バージョン情報

【ヘルプ(H)】メニューから【バージョン情報(A)】を選択すると、本ソフトウェアのバージョンを確認できます。

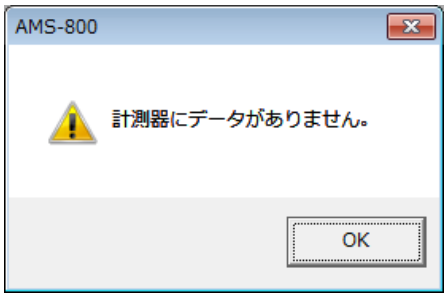
10 エラーメッセージ

本アプリケーションソフトにおける代表的なエラーメッセージを紹介します。
次のようなメッセージが表示されたらメッセージに従って下さい。

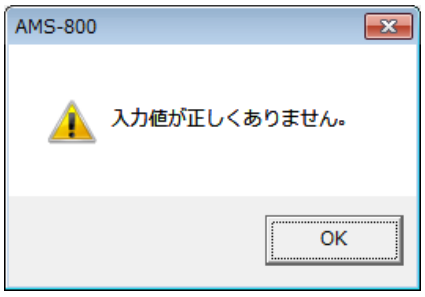
(1) ディスクの容量が足りない場合



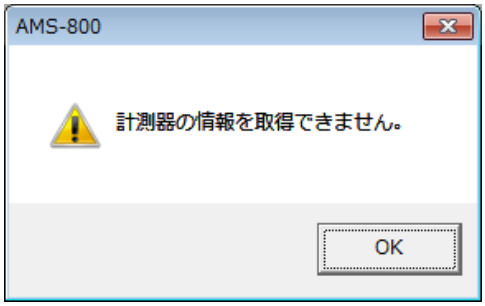
(2) 計測器にデータが保存されていない場合



(3) データ入力値が正しくない場合



(4) 計測器と通信ができない場合



11　コマンド一覧

11.1　メニューバーの説明

＜ファイル(F)＞

① 開く(O)
　データファイルを開きます。

② 印刷(P)
　グラフ表示・データ表示・備考などの印刷を行います。

③ 印刷プレビュー(V)
　印刷しようとしているデータをプレビューします。

④ プリンタの設定(R)
　プリンタの設定を行います。

⑤ グラフのプリンタ出力　白黒(B)
　グラフを印刷する時の色の設定を白黒印刷に設定します。

⑥ グラフのプリンタ出力　カラー(C)
　グラフを印刷する時の色の設定をカラー印刷に設定します。

⑦ テキストファイルの作成(T)
　データファイルをテキスト形式に変換します。

⑧ アプリケーションの終了(X)
　ＡＭＳ－８００を終了します。

＜編集(E)＞

① コピー(C)
　グラフ表示・データ表示・備考などをクリップボードにコピーします。

② 備考の編集
　ファイルの情報などを入力します。

③ ファイルの合成
　２つのデータファイルのグラフを合成して表示します。

＜表示(V)＞

① 選択範囲の拡大(E)
　選択した範囲のグラフを拡大表示します。

② グラフスクロール(S)
　グラフの横軸方向がスクロールできるようになります。

③ 表示範囲を戻す(M)
　拡大表示したグラフを元の大きさに戻します。

④ グラフ表示(G)
　グラフを表示します。

⑤ データ表示(D)
　データを表示します。

⑥ 備考の表示(R)
　ファイルの情報などを表示します。

＜設定(S)＞

① グラフ表示の設定(S)
　グラフの縦軸・横軸などの設定を行います

② データ表示の設定(D)
　データ表示する際の時間の表示形式を設定します。

③ グラフ色・線種の設定(C)
　グラフの線色・線種などの設定を行います。

④ リアルタイムデータ自動保存設定(R)
　リアル計測によるバックアップデータの保存先を設定します。

＜通信(C)＞

① データ入力(I)
　計測器からデータを吸い上げます。

② リアル計測(M)
　リアルタイムで計測器のデータをグラフ表示します。

③ リモート設定(R)
　計測器の時計・計測条件を設定します。

④ 通信中止(Q)
　通信を中止します。

⑤ ＳＴＡＲＴコマンド(S)
　計測器に START コマンドを送ります。

⑥ ＥＮＤコマンド(E)
　計測器に END コマンドを送ります。

⑦ ＵＳＢ(U)
　通信ポートをＵＳＢに設定します。

⑧ シリアルポート 1～6
　通信ポートをシリアルポートに設定します。

＜ウィンドウ(W)＞

① 新しいウィンドウを開く(N)
　新しいグラフ・データを開きます。

② 重ねて表示(C)
　開いているグラフ・データなどを重ねて表示します。

③ 上下に並べて表示(T)
　開いているグラフ・データなどを上下に整列して表示します。

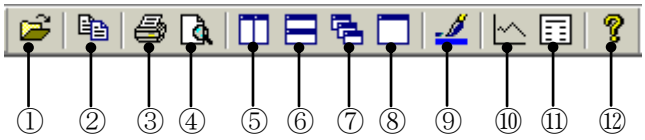
④ 左右に並べて表示(V)
　開いているグラフ・データなどを左右に整列して表示します。

⑤ アイコンの整列(A)
　開いているグラフ・データなどのアイコンを整列して表示します。

＜ヘルプ(H)＞

①バージョン情報(A)
　ＡＭＳ－８００のバージョン情報を表示します。

11.2　メニューバーの説明



① データファイルを開きます。
② グラフやデータをクリップボードにコピーします。
③ グラフやデータを印刷します。
④ 印刷するデータをプレビューします。
⑤ ウィンドウを左右に並べて表示します。
⑥ ウィンドウを上下に並べて表示します。
⑦ ウィンドウを重ねて表示します。
⑧ ウィンドウを全面表示します
⑨ グラフの線色・線種の設定を行います。
⑩ グラフを表示します。
⑪ データを表示します。
⑫ バージョン情報を表示します。